

* 0054158000 *

0054158-000

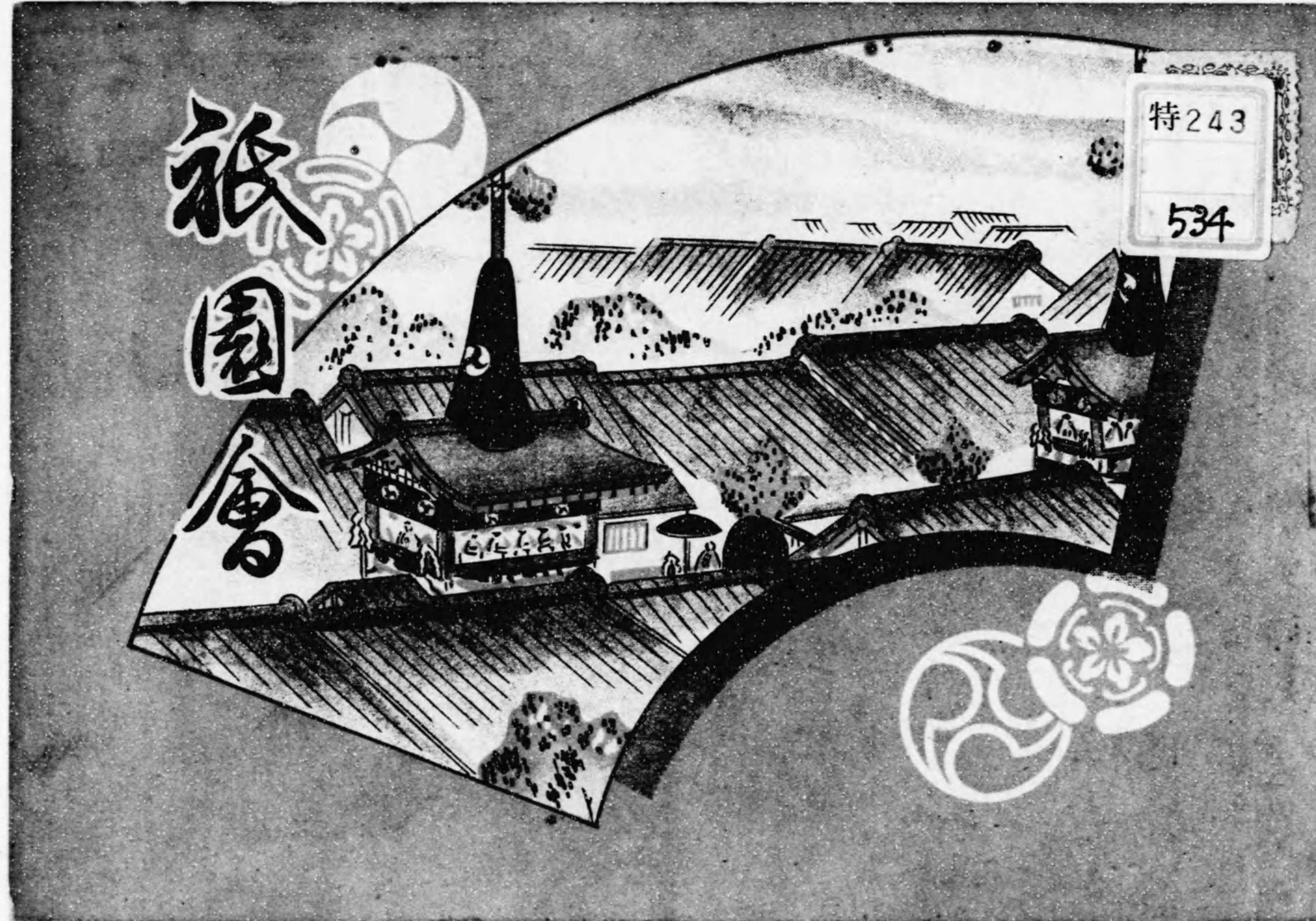
特 243-534

祇園会

趣味と遊覧社

昭和10

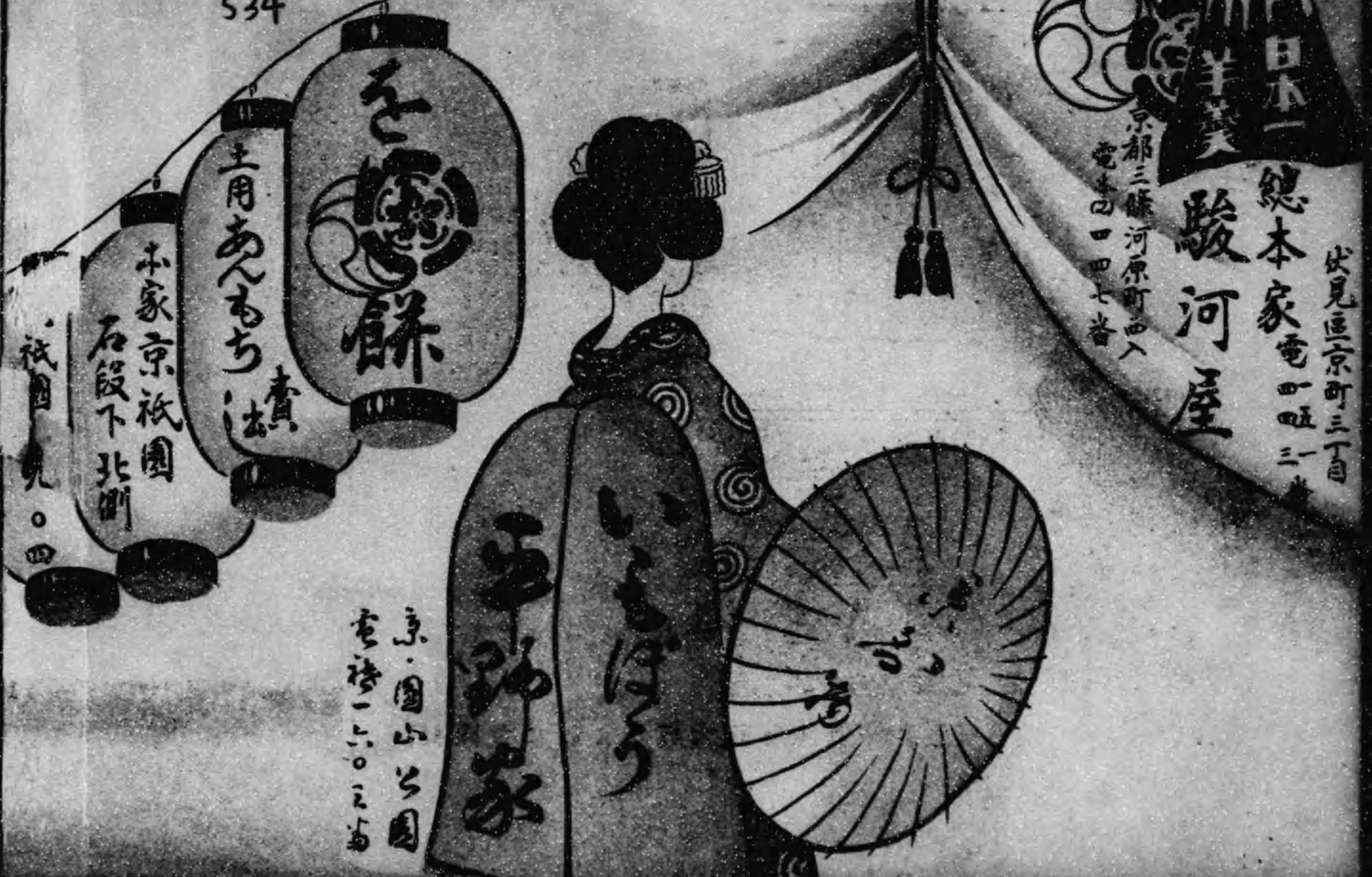
AIC





(祇園會に賑ふ八坂大社と久世の會)

特243
534



祇園見。四

本家京祇園
石段下北側

土用あち法賣

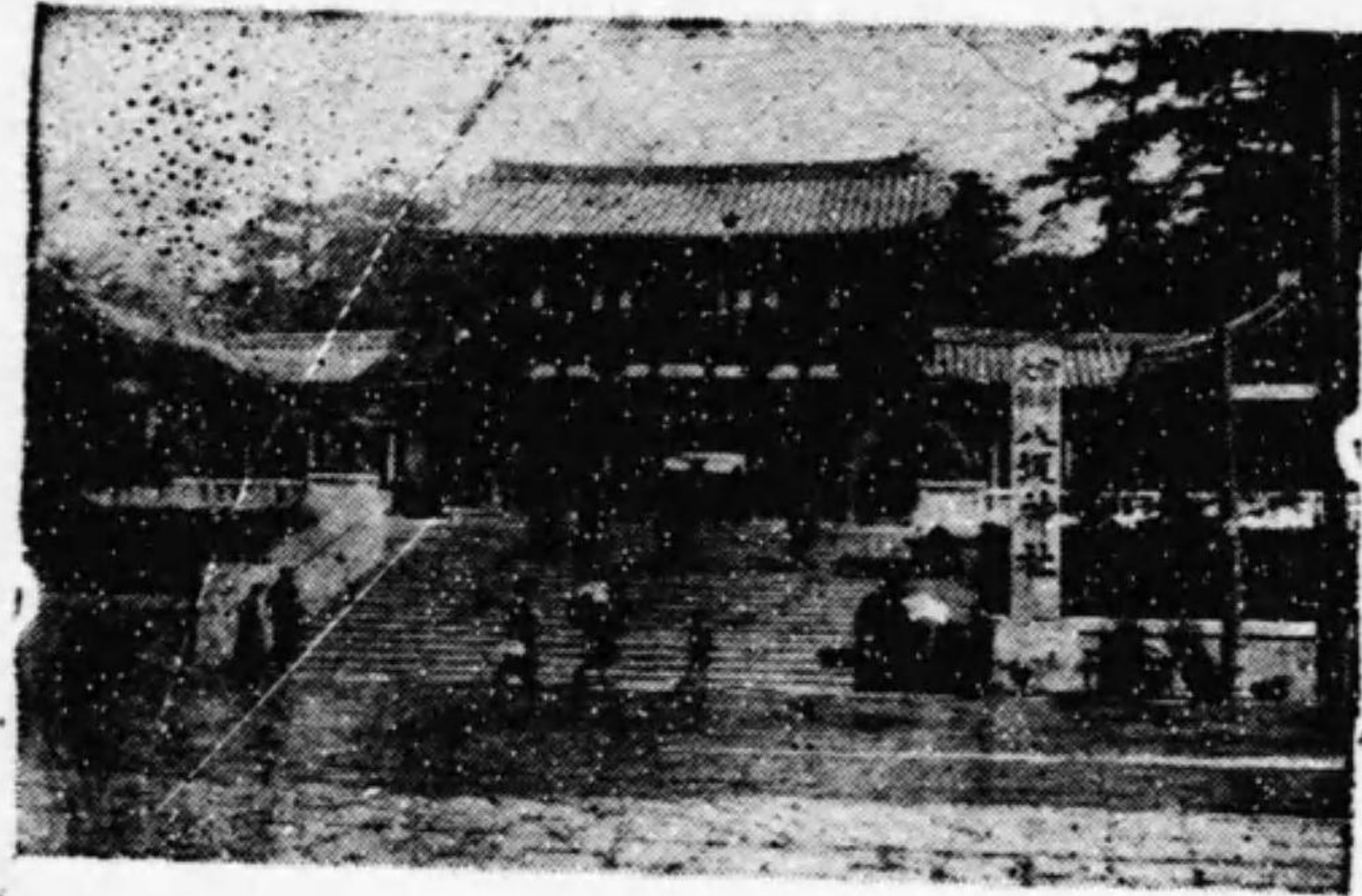
玉露餅

京・園山・園
電報一五〇二七

玉露餅

玉露餅

日本一
羊羹
駿河屋
伏見區京町三丁目
總本家 電四四三
京都三條河原町西入
電四四七番



(祇園會に賑ふ八坂大社と久世の雅)

特243
534



日本一
羊羹
駿河屋

京都三條河原町西入
電本四四七番

伏見區京町三丁目

總本家 電四四七番

京・園山・園
電特一六〇二番

五助家

いんげん

本家京祇園
石段下北側

祇園九〇四

土用あち
賣

を
餅

日本の誇 祇園祭の起源

日本三大祭として古来より名高き京の祇園祭、大阪の天神祭、東都の神田祭は超特大祭として日本は愚か、海外的にも知らるゝ處であるが、就中、祇園祭は三大祭の併稱時代を過ぎ古典的にして古今を貫く世界の祇園祭となり、その宏壯華麗な藝術の粋と人情の純潔さを織り込んだ行事の崇厳さに敬服せしめ、風雅な情趣に陶酔せしめる舊都千年の文化の極致は何人も驚嘆讃美の外はない。

祇園祭の濫觴

元來、鉾は悪を祓らひ疫を鎮め平和のための武力を善用するの意義あるもの山は悪魔を降伏せしめ眞の平和と天國の愉快さを教へ安泰静淨を鼓舞するものに外ならぬ。

そも、祇園祭の起源は遠く人皇五十六代清和天皇の貞觀拾八年の夏、天下疫病流行して死者者幾百千の數を知らず疫病退散の御被せんため祇園の神輿を神泉苑に迎へ長さ二丈の鉾六十六本を日本國敷に形象し祇園社司卜部比良廣は勅を奉じて御靈會を行つた、之れが祇園會の濫觴である、更に一條天皇の長徳四年の頃より、大嘗會の標(しめ)の山に倣ひて作山を曳くことも始り、鎌倉時代には田樂散樂等に曲舞車、笠鉾などの風流起り足利時代に至つては善美を盡くした鉾の數も十四、山の數も四十九の多數に及び洛中洛外は元より遠國遙々と來つて祭儀に列するを誇としその盛觀の極に達したのであるが、足利の末期一旦中絶せんとし、之を織田信長公祇園大神を信仰の餘り中興して再び今日の盛觀を見るに至つたのである。

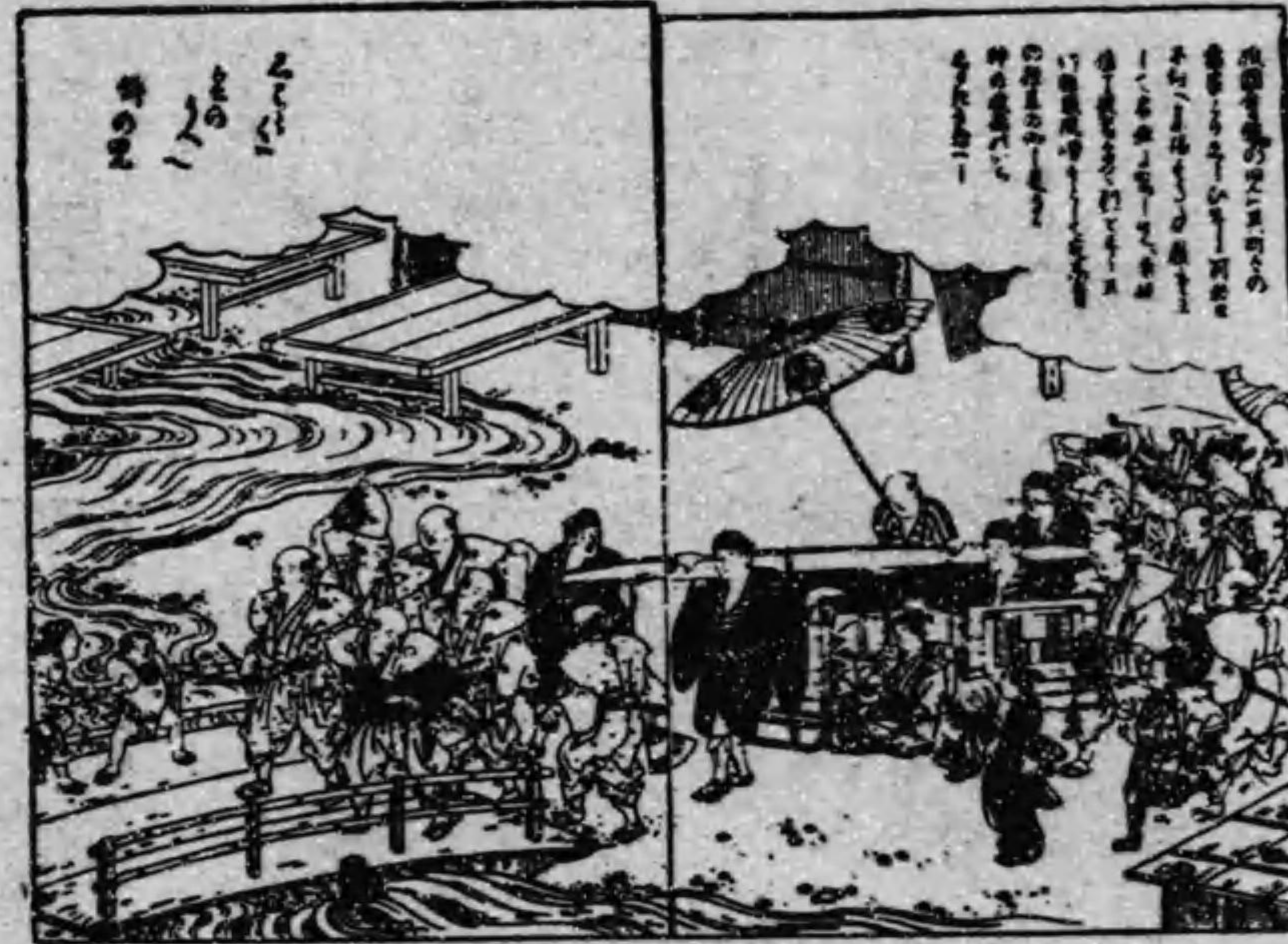
品一第も味風も匠意



品逸流風のげやみおき白面も來由



祇園會の稚兒に就て



本來稚兒は神道に於ては神の御魂を卒直に映じて混濁せざる純潔なる童心を有し、神靈神託を蒙るに速やかなるが故に神魂を移して氏子の惡疫災禍を拂らひ、吉慶を招來し給ふ神慮を表現したものであり、佛法より見れば祇園稚兒は阿彌陀佛と仰ぎ禿の二人は觀音勢至とも譬へ七才より十四才までの身心共に愛はしき兒童を見立て行はしむるので長刀鉾の稚兒指導には造詣深き狂言の大家茂山千五郎先生が鉾の上の舞踊は勿論位の上に至るまでの行住座臥の修式作法にも隠れたる努力が辨はれてゐる、即ち十一日の午前十時頃盛裝した稚兒は飾り馬に乗じ社の上、祭儀が行はれ、杉葉の御守、神酒、稚兒餅、並に記念盃を受けて退下のことより各鉾の歴訪の心得に動作の優雅さの教導も行き届き、情趣の極致が發揮される、此の稚兒の休憩所が例年三條堀川の東名夏園ちご餅本家の若狭屋に定められたことも床しきの限りであつた。

尙ほ本年の稚兒は茂山忠三郎氏の令息倅一氏が率仕することとなつた。

祇園會に
第一に
目に立つ
半ありと
浴衣帯



京 都 新 京 極 四 條 北 入
電 話 本 局 ② 一 九 三 三 〇 一
番 一 三 三 九 一 〇



千代を壽く
御華燭用品

盛夏向品取揃ひ
是非當店へ御下命願上候

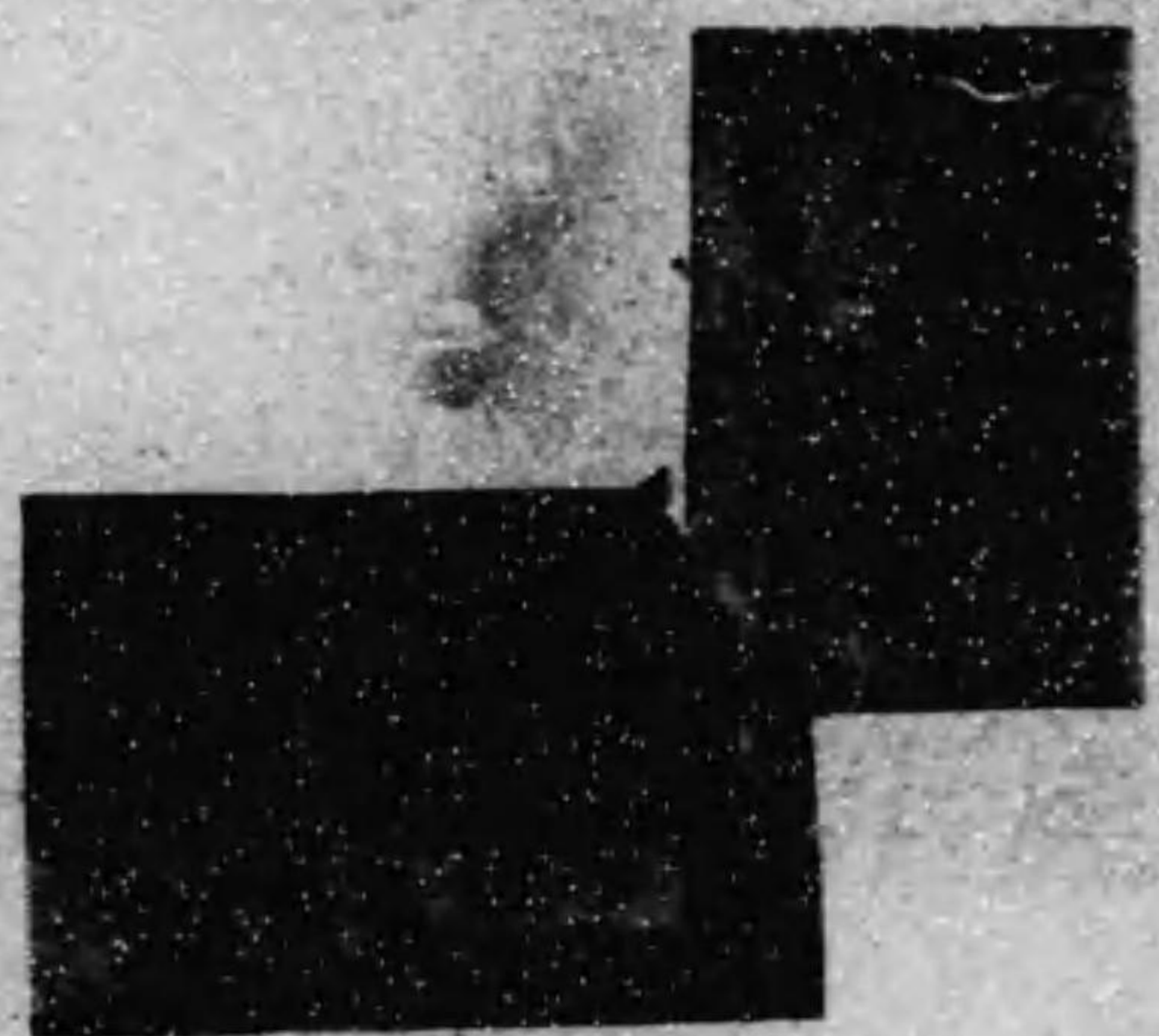


具身裝 屬金貴

春野小

北條四町寺都京
二七七二 一五〇一②本電

御仰付次第「御婚禮の采」拜呈致します



祖始針やすみ京
家本正屋壽美



店商秀勝井福

番五二八二②局本電 東極京新條三都京

階上に手藝研究場の設備あり

32



(古代の祇園會風景)

京の名扇 贈答の華

大塚の御禮新
御禮新

東都屋藝用
堂扇團田藤
五〇三二本電



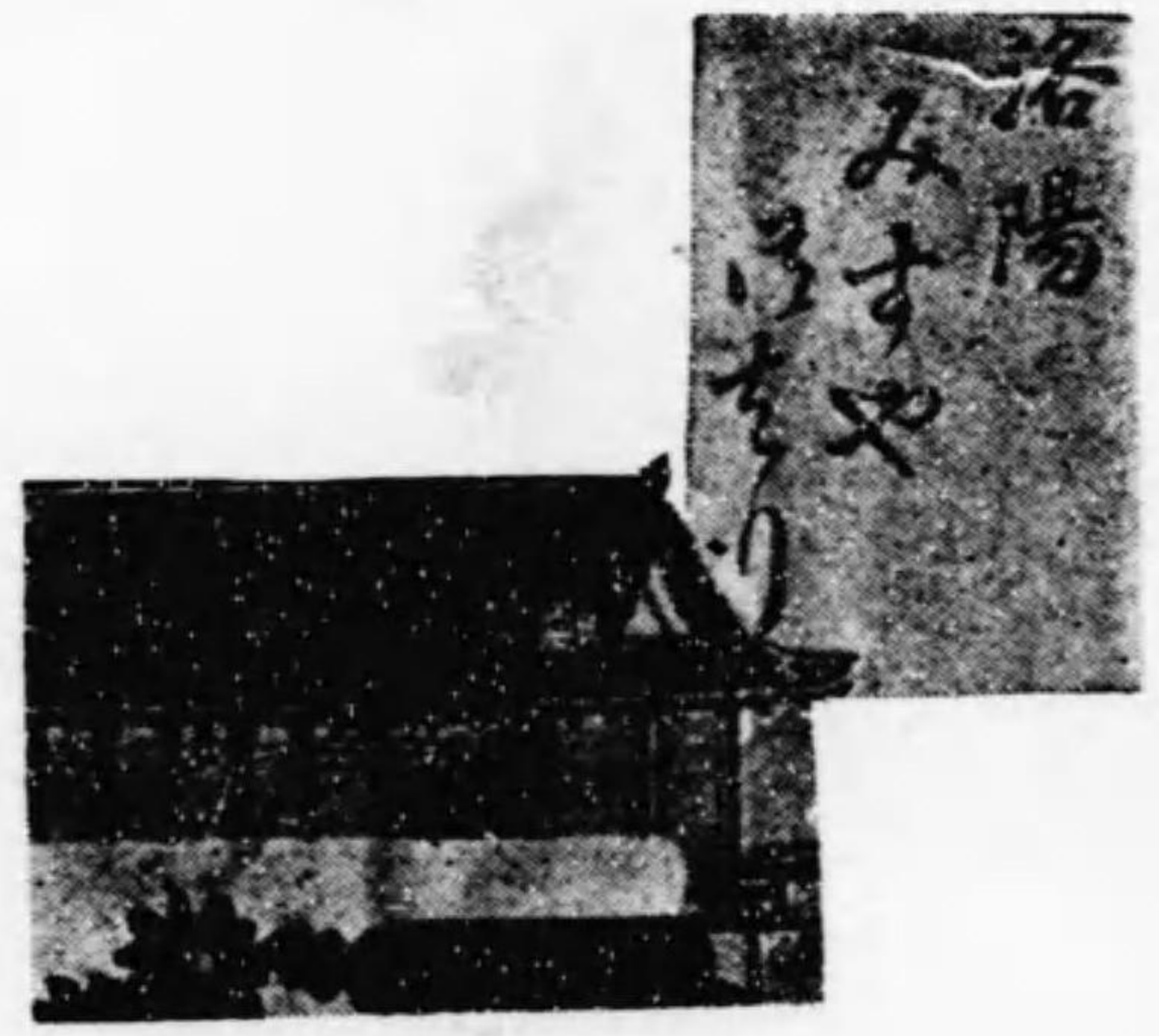
千代を壽く
御華燭用品

盛夏向品取揃ひ
是非當店へ御下命願上候

具身装  屬金貴
春野小

北條四町寺都京
二七七二 一五〇一②本電

御仰付次第「御婚禮の葉」拜呈致します



祖始針やすみ京
家本正屋壽美



店商秀勝井福

番五二八二②局本電 東極京新條三都京

階上手藝研究場の設備あり

32



(古代の祇園會風景)

京の名扇贈答の華

團扇堂
東町屋巷角六
堂扇團田藤
五〇三二本電

日本の誇 祇園祭の起源

日本三大祭として古来より名高き京の祇園祭、大阪の天神祭、東都の神田祭は超特大祭として日本は愚か、海外的にも知らるゝ處であるが、就中、祇園祭は三大祭の併稱時代を過ぎ古典的にして古今を貫ぬく世界の祇園祭となり、その宏壯華麗な藝術の粹と人情の純潔さを織り込んだ行事の崇峻さに敬服せしめ、風雅な情趣に陶酔せしめる舊都千年の文化の極致は何人も驚嘆讚美の外はない。

祇園祭の遷傳

元來、鉾は惡を祓らひ疫を鎮め平和のための武力を善用するの意義あるもの山は惡魔を降伏せしめ眞の平和と天國の愉快さを教へ安泰靜淨を鼓舞するものに外ならぬ。

そも、祇園祭の起源は遠く人皇五十六代清和天皇の貞觀拾八年の夏、天下疫病流行して死する者幾百千の數を知らず疫病退散の御被せんため祇園の神輿を神泉苑に迎へ長さ二丈の鉾六十六本を日本國數に形象し祇園社司卜部比良麿は勅を奉じて御靈會を行つた、之れが祇園會の濫觴である、更に一條天皇の長徳四年の頃より、大嘗會の標(しめ)の山に倣ひて作山を曳くことも始り、鎌倉時代には田樂歌舞等に曲舞車、笠鉾等の風流起り足利時代に至つては善美を盡くした鉾の數も十四、山の數も四十九の多數に及び洛中洛外は元より遠國蓋々と來つて祭儀に列するを誇としその盛觀の極に達したのであるが、足利の末期一旦中絶せんとし、之を織田信長公祇園大神を信仰の餘り中興して再び今日の盛觀を見るに至つたのである。

品一第も味風も匠意

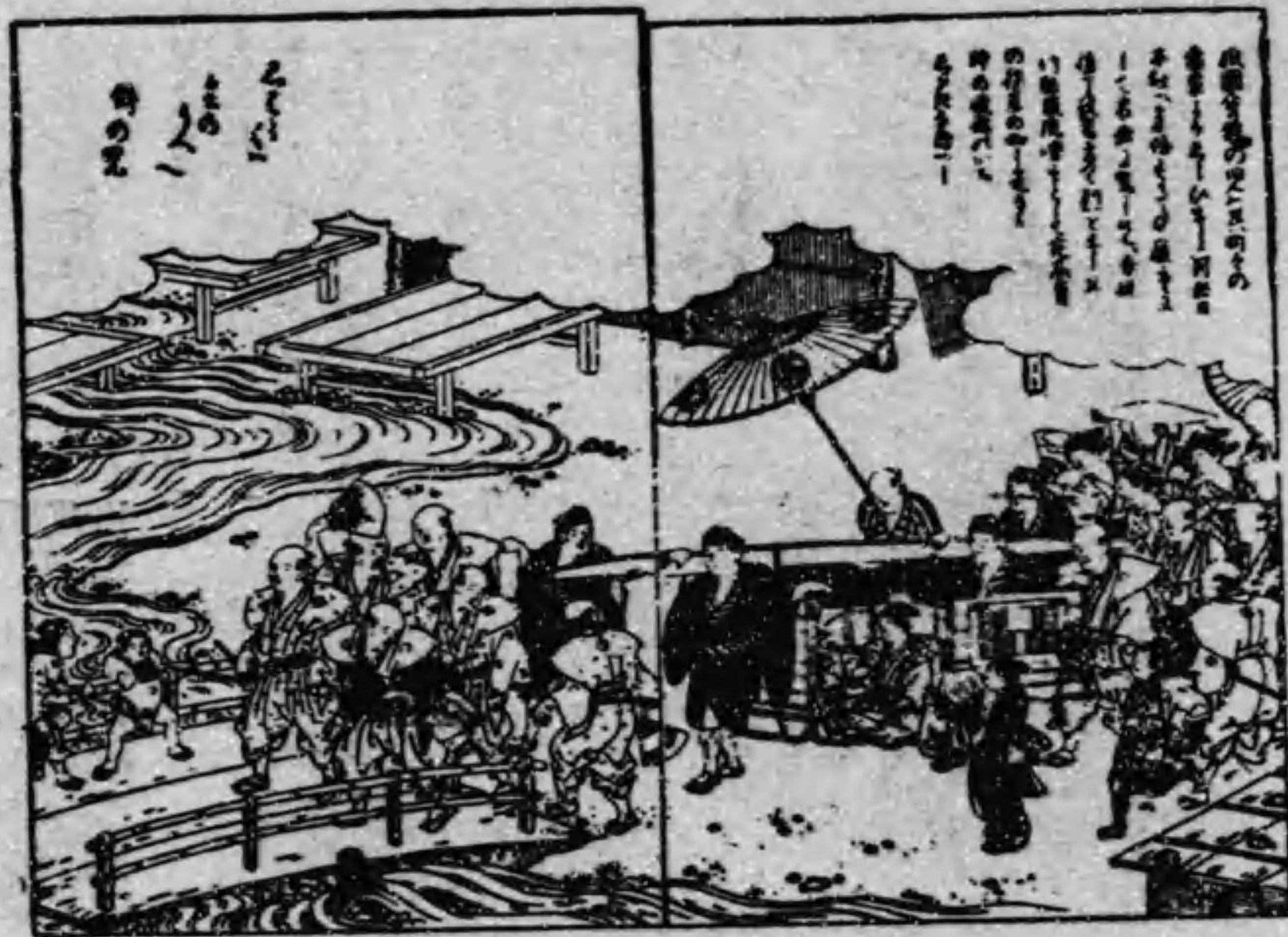


品逸流風のげやみおき白面も來由



5 4

祇園會の稚兒に就て



本來稚兒は神道に於ては神の御魂を卒直に映じて混濁せざる純潔なる童心を有し、神宣神託を蒙るに速やかなるが故に神魂を移して氏子の惡疫災禍を拂らひ、吉慶を招來し給ふ神慮を表現したものであり、佛法より見れば祇園稚兒は阿彌陀佛と仰ぎ禿の二人は觀音勢至とも譬へ七才より十四才までの身心共に麗はしき兒童を見立て行はしむるので長刀鉾の稚兒指導には造詣深き狂言の大家茂山千五郎先生が鉾の上の舞踊は勿論位の返上に至るまでの行住座臥の儀式作法にも隠れたる努力が拂はれてゐる、即ち十一日の午前十時頃盛裝した稚兒は飾り馬に乗じ社參の上、祭儀が行はれ、杉葉の御守、神酒、稚兒餅、並に記念盃を受けて退下のことより各鉾の歴訪の心得に動作の優雅さの教導も行き届き、情趣の極致が發揮される、此の稚兒の休憩所が例年三條堀川の東名栗祇園ちこ餅本家の若狭屋に定められたことも床しきの限りであつた。

尙ほ本年の稚兒は茂山忠三郎氏の令息伴一氏が奉仕することゝなつた。

祇園會に
第一に
目に立つ
半系りと
浴衣帯



京 新 都 京 極 四 條 北 入
電 話 本 局 ① 二 九 九 三 〇 一
番

一産國養榮の嗜味柚

初吉 **八** 本日
嗜味柚



都 京
沿河東沿小飾
三百八
九一〇一八三 本邦電

優美の極致祇園祭



官幣大社
祇園八坂神社
八坂大神は伊弉諾尊の御子に在し
まし、天照皇太神、月讀尊と共に三
貴子と尊崇する御稜威最も貴き大神
に抄らせ給ふ雲雀鳴尊を中央に御妃
櫛稻田姫命を東の御座に西座に八柱
御子神を祀り又西の御座の側に別座
として櫛稻田姫命の御父母脚摩乳手
摩乳の二神を祀り官幣大社として御
歴代天皇の最も御崇敬厚く、入皇三
十七代齊明天皇の二年八月、高麗の
調遣副使伊利之使主が來朝の際、新
羅の牛頭山に鎮り座す大神を奉じ山
城國八坂郷に齊きまつる處、神佛混
清時代は祇園社と言ひ感神院と云ひ
明治維新後八坂神社と改稱せられ古
來より京洛二十二社の一として名高
く靈驗利生を蒙る者擧げて數ふる邊
なく、年中に大小の祭典二百餘度あ
る中その主なるもの大晦日にをけら
祭あり一月十九日に疫神祭あり特に
七月十六十七の兩日と廿三廿四の祇
園祭は豪華壯麗日本一として賑ひも
亦た隨一と古來より喧傳する如くで
ある。

7 6



屋上納涼臺開設

京の夏を象徴する



レストラン 矢尾政

電話本局② 1147 番
1148
1149

一産國養榮の噌味柚

初番 **八** 本相
噌味柚



都 京
流内東海小飾
三百八
九一〇一八三 局本活電

優美の極致祇園祭



官幣大社
祇園八坂神社
八坂大神は伊弉諾尊の御子に在し
まし、天照皇太神、月讀尊と共に三
貴子と尊崇する御稜威最も貴き大神
に抄らせ給ふ素盞鳴尊を中央に御妃
櫛稻田姫命を東の御座に西座に八柱
御子神を祀り又西の御座の側に別座
として櫛稻田姫命の御父母脚摩乳手
摩乳の二神を祀り官幣大社として御
歴代天皇の最も御崇敬厚く、人皇三
十七代齊明天皇の二年八月、高麗の
調進副使伊利之使主が來朝の際、新
羅の牛頭山に鎮り座す大神を奉じ山
城國八坂郷に齊きまつる處、神佛混
淆時代は祇園社と言ひ感神院と云ひ
明治維新後八坂神社と改稱せられ古
來より京洛二十二社の一として名高
く靈驗利生を蒙る者擧げて數ふる違
なく、年中に大小の祭典二百餘度あ
る中その主なるもの大晦日にをけら
祭あり一月十九日に疫神祭あり特に
七月十六十七の兩日と廿三廿四の祇
園祭は豪華壯麗日本一として賑ひも
亦た随一と古來より喧傳する如くで
ある。

7 6



版畫封筒 抒情人形

京・新京極三條 電・本四六五二

屋上納涼臺開設

京の夏を象徴する



レストラン 矢尾政

電話本局② 1147 番
1148
1149

山鉾の由來

其の故事と傳説など



NAGINATABOKO.

長刀鉾

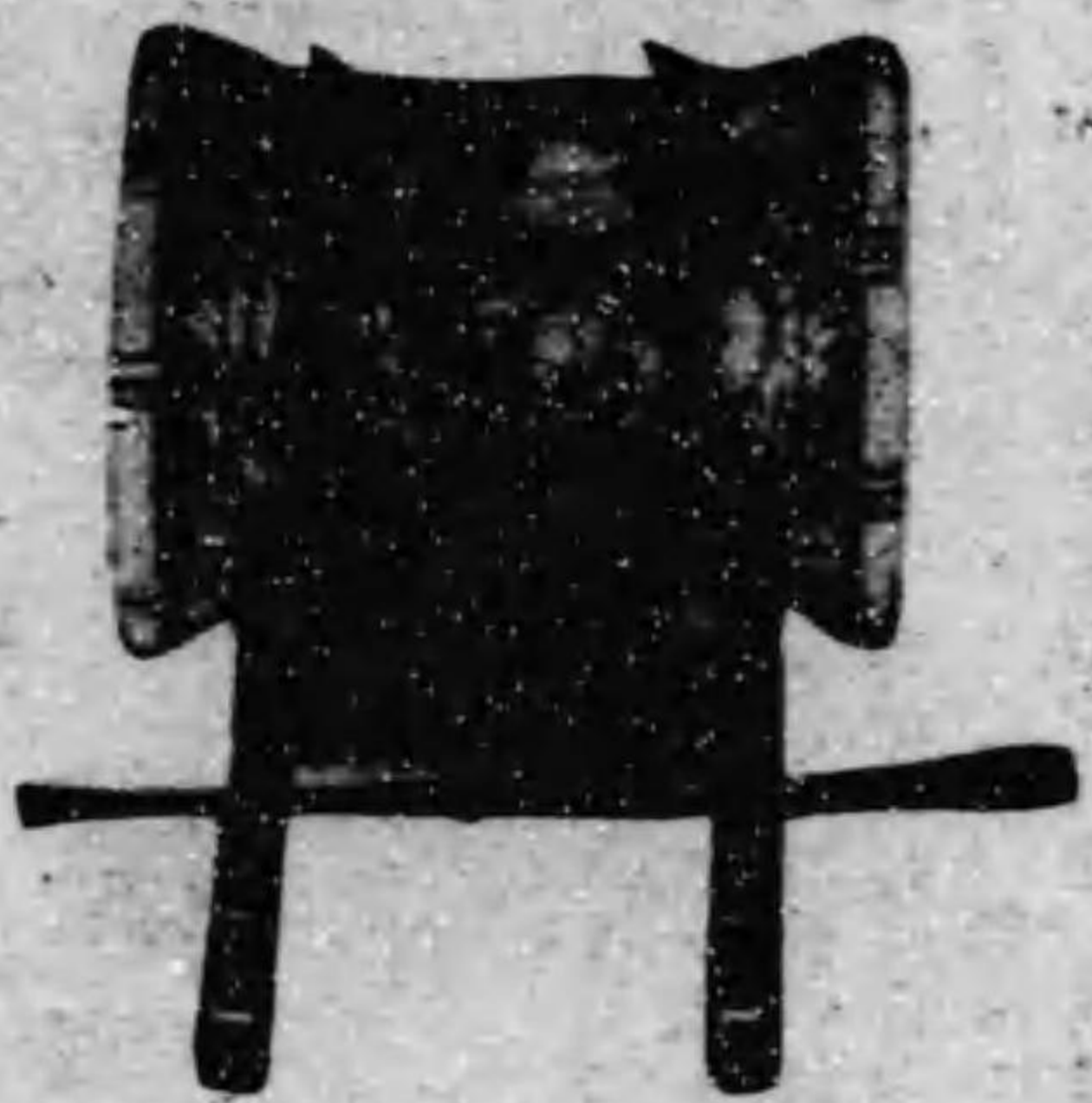
なまなはこ

蒙とらず先頭第一に進む長刀鉾は我國の神とも稱す可き三條小鍛冶宗近の最愛の女子が病難危篤の全快を祇園大神に祈願して靈驗顯著、その全快の御禮に心を籠めて鍛へし名作を鉾頭とする處から名が起り惡疫邪惡を拂ふ利生尊く往昔はこの長刀の地上に印する影を誇げば女子は負傷を蒙つた程であつた、この長刀は還幸祭と、十七日の當日町内會所に於て拜觀せしめ今は元暦三年和泉守金道、大法師榮仙合作の名刀を以て代用せしめてある神の中心の人物は和泉小次郎親衛と言ふ鎌倉時代の大豪傑で船を背負ふて水陸を往く大力無双、時の執權北條時政の暴威を懲らし寄せ来る敵兵を小勢にて全滅せしめた快傑で長刀鉾は勇ましい鉾である、親衛は今なら水害救助には此の上なしの人物と言ふべきであらふ。

この鉾は四條通東洞院西入より出で、鉾の天上の極彩色草花は景文筆見送りには綴れ錦、破風彫刻は片岡友輔、二番水引八珍菓の圖は中島輝陽の下繪

能樂用 雅樂用 各種
附屬品 一式
日本固有雅樂の粹

樂太鼓 笙各樂器



招慶堂

佐竹藤三郎商店

京都市寺町佛光寺北入
電話下⑤一九二〇香



KANKOBOKO.

京履物の粹 紅葉屋

京・四條烏丸西
電話本局②一三四〇香

函谷鉾

かんこぼこ

弘法大師の見送りとゴブラン織前掛けで名高い函谷鉾は支那周の時代、齊の民王の宰相であり英雄の第一人者である孟嘗が國使とし隣國秦の昭王の許に在つた時齊と秦とは國交斷絶となり孟嘗君急ぎ歸國せんとし國境函谷關に夜間逃れたが關の旋として夜半は開門せず幸に從者に鶏鳴の真似を能くするものあり鳴聲真に迫つて關門を開かせ、無事歸國し謀將として後大勝したるの故事を模するもの即ち月に三角は函谷關の山中月ある夜半を示すもの、心棒の中央にその人形があり又た函谷關の人形がその下にある。

尙ほこの鉾は四條通烏丸西入より出で前掛けは名高いフランスのゴブラン織古代將士凱旋の圖で乾盃を上げて喜悅の圖大見送りは天下の絶品、弘法大師の金剛界證讚風光帖で今は寶物として、代用に河本延之が模した紺朱子地盤金通し別織の大見送りを掛け、本物は町内集會所で神事當日と還幸祭とに拜觀せしめてゐる特にこの鉾の種兒は昭憲皇太后の御兄君一條實良公の御似顔であり一條家より御行列つきで贈られた由緒ある人形である尙屋根裏の金地極彩色鶴と鳥とは今尾景年翁が心血を盡いだ傑作の下繪である。

獨創新案最小最美

藝術的代表品

豆鉾

贈答にも

裝飾にも

夏玩具

水遊び新品

吉川玩具店

京都市新京極蛸薬師南入

電話本局②五七五五香



NIWATORIBOKO.

鶴 鉾

この鉾は神代の、昔天地の混沌たるに寓意し常世の長鳴鳥を表徴よて命名されたもの、竿頭は雲と太陽とを擬し、真木の小人形は住吉の神像である、鉾の裝飾中見送りはゴブラン織で最も名高く將士出陣の圖、上水引は下河邊玉紐、下水引郭子儼面は奥春二番水引胡蝶の圖は景文の下繪

お化粧は今も昔も



本家 紅 平
京都四條寺町西入
電本局②二五三五

萬人に好感の

避暑海水浴品
カーテンとかや

カトヤ
敷物 毛布 寝台
カトヤ



TUKIBOKO.

月 鉾

鉾の尖端に半月の形がある處よりこの名が起つてゐる、凡て月に意匠を取り真木の小人形は月讀尊であらせられ、右手に元龜四年の銘ある櫛を持ち、左手に元龜四年の銘ある櫛を持ち、屋根先及び蛙股の彫作は有名な左甚五郎の作、屋根裏草花の圖は圓山應舉の筆に成りしもの上水引神獸の圖は應震の下繪、長押貝盡しの金具又優秀である。

家傳名菓
葛 樂 燒
三 樂 燒
アイスクリーム
龜 屋 良 則
京都市蛸薬師堺町角
電本局②二三七・六三五五
振替大阪二七二二二



NIWATORIBOKO.

鶏 鉾

この鉾は神代の、昔天地の混沌たるに寓意し常世の長鳴鳥を表徴よて命名されたるもの、竿頭は雲と太陽とを擬し、眞木の小人形は住吉の神像である、鉾の裝飾中見送りはゴブラン織で最も名高く將士出陣の圖、上水引は下河邊玉絃、下水引郭子儀面は吳春二番水引胡蝶の圖は常文の下繪

お化粧は今も昔も



本家 紅 平

京都四條寺町西入
電本局②二五三五

萬人に好感の

避暑海水浴品
カーテンとかや

敷物 毛布 寝台

四條通寺町角
カドヤ
電本局 二五三五
二五三六



TUKIBOKO.

月 鉾

鉾の尖端に半月の形がある處よりこの名が起つてゐる、凡て月に意匠を取り眞木の小人形は月讀尊であらせられ、右手に元龜四年の銘ある權を持し月を仰ぎ給ふ、屋根先及び蛙股の彫作は有名な左甚五郎の作。屋根裏草花の圖は圓山應舉の筆に成りしもの上水引神獸の圖は應震の下繪、長押貝盡しの金具又優秀である。

家傳名菓

葛 燒 樂 三

特製 アイスクリーム

龜 屋 良 則

京都市蛸薬師堺町角
電本局②二三七・六三五
振替大阪二七二二二



SUWAMABOKO.

放下鉢

すはまほこ

放下鉢を洲濱鉢と言ふは鉢頭の日月星の三光の形が洲濱の形に似てゐるため、又た京の名菓洲濱に酷似するから俗にこの名が通り名となつたもの、放下とは昔佛教にて遊戯を以つて讚佛乘の因とした放下僧は音楽を鳴らし手品を演じ頗る酒脱遊戯風流のうちに悟りを開くといふ。恰も天台の大涅槃會踊、空也上人の空也念佛踊り等、口と共に手足に感謝の念と悦びの表情を喚起する時、直ちに大悟の境地に達すると同意義を有し、一切を放下して却つて眞に物を得る妙味を説いたものである。

操仕掛人形の自由に舞ふ巧妙なもの眞の稚兒に異ならぬ大木人形店謹製の名作又た下水引は吳春、燕村の下繪と傳へる

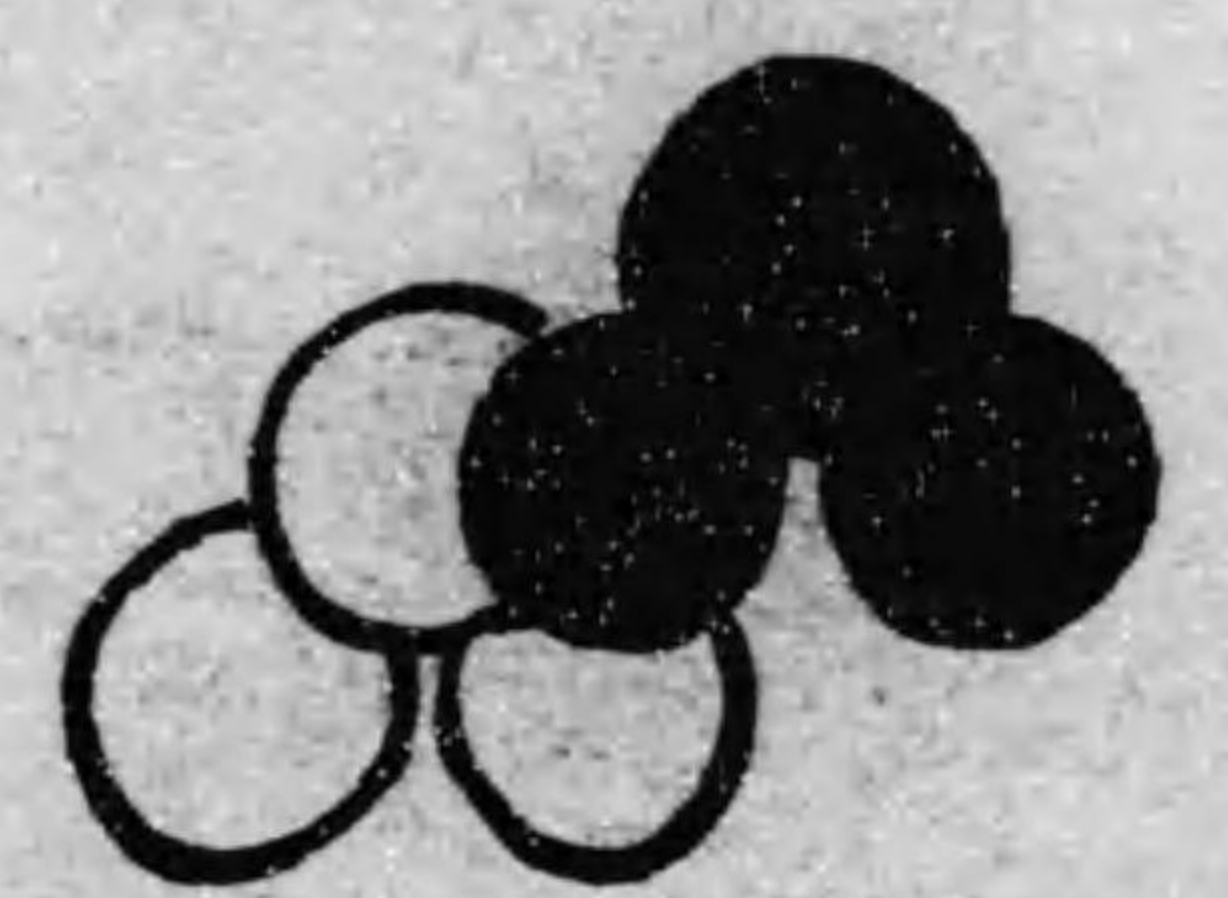
岩戸山
いわたやま

山ではあるが曳山で餅同様の紙團子で巡行するから茲に加へて記す、申すまでもなく祇園大神の御飾看にまします天地神の祖神たる天照皇太神の天の岩戸を出御遊さるゝ御姿を形象した山で、屋根の上は天地創造の陽神伊弉諾尊、中には手力雄命は唐冠を頂だき天照大神は白衣を着け給ひ前に鏡をかけさせ給ふ。

新町高辻北入町より出で前懸は阿闍陀製見送は唐子の遊の唐織。

文祿四年の昔より鉢と因縁ふかき

京名物 御洲濱



すはま鉢町本家

龜屋清次

京都新町四條
すはま鉢町
電本局④四七五八番



FUNEBOKO.

船

ふねほこ

朱塗高欄の美しい船に軸先きは鶴首で旋機林立せる優に勇ましき軍船で、神功皇后の新羅御親征を擬したるもの、住吉明神を大將とし高良明神の副長、鹿島明神の梶取りであるから如何なる軍さにも破れる氣遣ひ更になしであるそれに安曇磯良といふもの龍宮から満珠乾珠の玉を奉るといふ傳説に骨子を執つて出来て居る。

この鉢は新町佛光寺北入より出で鶴の首は名人長谷川若狭の彫刻に成り下水引雲龍の刺繍は西村楠亭の下繪飛龍縹細の舵は寛政四年の作である。

親愛を捧ぐ御贈答品は

古典と最先端の源泉

萬能的効果の珍奇の製品

藝術的南蠻更紗作品



各種趣味の袋物、壁掛
テーブルクロス

京都四條御旅町
スウハ-ザラザ

電本局④
三七七三番
一六五六番



占出山 うらてやま

錦小路烏丸西入 古來から安産の守神軍神として尊信する神功皇后様が新羅御親征の前に九州肥前の玉島川で鮎を釣り玉ふて戦争の勝利を占はせられたが果して鮎はよく釣れ皇太后は大に欣ばれた、此の故事を模してある、鮎といふ字が魚属に占と書く所以もこゝにある、お祭の三日前から同町會所で御神像を拜ませ又同時に安産のお守りを頒布する、くちの願香の早い年は産が軽く後れると重いと傳へられ難新前までに安産の御禮として納まつた立派な御衣裳が多い、見送りはつゞれ錦である。

御贈答には氣品ある京一番の



阿やれ童り

京物名香
特製かとり線香
製造販賣元

井上
在鶴堂
京都寺町綾小路角
電下④四八〇七番

十六日に限り發賣

常はござんせぬ

吉例天下一品
占出饅頭
おとづれ
水玉
京錦小路室町東入
電話本局④四九三五番

(うらて山町)



(カワトは岩戸山)

由緒最も尊き
太子山

元は「太子の栴入山」とも稱へた太子山は今より約四百八十年以前、後花園天皇の嘉吉元年六月、時の將軍足利義教の發起にかゝり、聖徳太子が四天王寺建立の材を得んとして自ら山に入らせ給へる故事に據つてその尊容を寫すところ御人形は聖徳太子十六歳の御尊容であつて直衣差貫を召され、右に斧を執り左にあこめ扇を持ち、當に入山の上へ伐木せられんとする御姿、木彫にして古來運慶の作と傳へられ又杉の木に掛け奉る觀音像は六角堂の御本尊と同躰として往昔より尊崇せらる、欄楹金具は時計草として頗る精巧を極め前掛は狸々餅で奉の始皇が建立せる有名な阿房宮の圖を刺繡し下繪は川島安永四年の製作、見送りは丈七尺五寸、古渡りの懸籠にて俗に天竺織と言ひ凡そ四百年前のものとして元朝鮮王の持地なりしと傳へ、宵山に授與せる杉の御守は古代より不思議の利生ありと言ふ。

太子山奇應丸
お大切のお子達には必ず
正本
衛兵
京都
油小路
五番
電話
下五
五番
カニ
ツヨ
キツ
アツ
ニ全
らる



(山出占) (山神天震) (山天樂白) (山伏山)

白樂天山

はくらくてんやま

室町通佛光寺北入 一時は山建ての材料不足と思ひ町内が出さなかつた處、大正二年道具發見して再び大正三年から再興して巡行に加はることゝなつたのは喜ばしい唐の大詩人白樂天が大才に長じて日本の智慧を圖らんと、筑紫の海より來朝し山中に入つて樹上に坐したる鳥巢道林禪師と合ひて禪の大問答に及び却つて白樂天が道林禪師に説破され悔り難き日本の有様に謝して本國に歸つた故事を題材としたものであつて、白樂天には漁翁と面會して歌と詩との優劣から白樂天が感服して歸國するので、漁翁は住吉明神の化身となつてある、紫縮緬の衣服に緋の衣を着し花色羅紗の帽子に茶の格子をかいたのが道林禪師であり、唐唐唐文官服が白樂天で、見送りは唐渡りつゞれ錦である。

山伏山

やまぶし

室町通小路北入 法力の名高い淨藏貴所といふ山伏が八坂の塔の傾いたのを祈禱で修復したといふ處を模寫したので彼は三清善行の子であつたといふ、見送は菱錦波に龍、ある炎雲の年この人形が汗をかいたことがあつて信仰する人が多い全く人神の技になつた人形で、見送りは元菊水鉢のもので稱世の名品である。

霞天神山

あられてんじんやま

錦小路室町西入 昔永正年中大火起り正に京洛も修羅の巷と化さんとした際時ならぬ驟降り火は忽ち消えた此時奇蹟に一寸二分の天神、霞と共にふり屋根の上に止まられた奇瑞がある、此の町を霞屋町といひ、又た山が錦の小路にあるから錦天神山とも稱してゐる、御神体を山に祀つてあるので又た火除天神山とも云ふのである、鳥居の額は青蓮院宮尊澄親王の御筆。

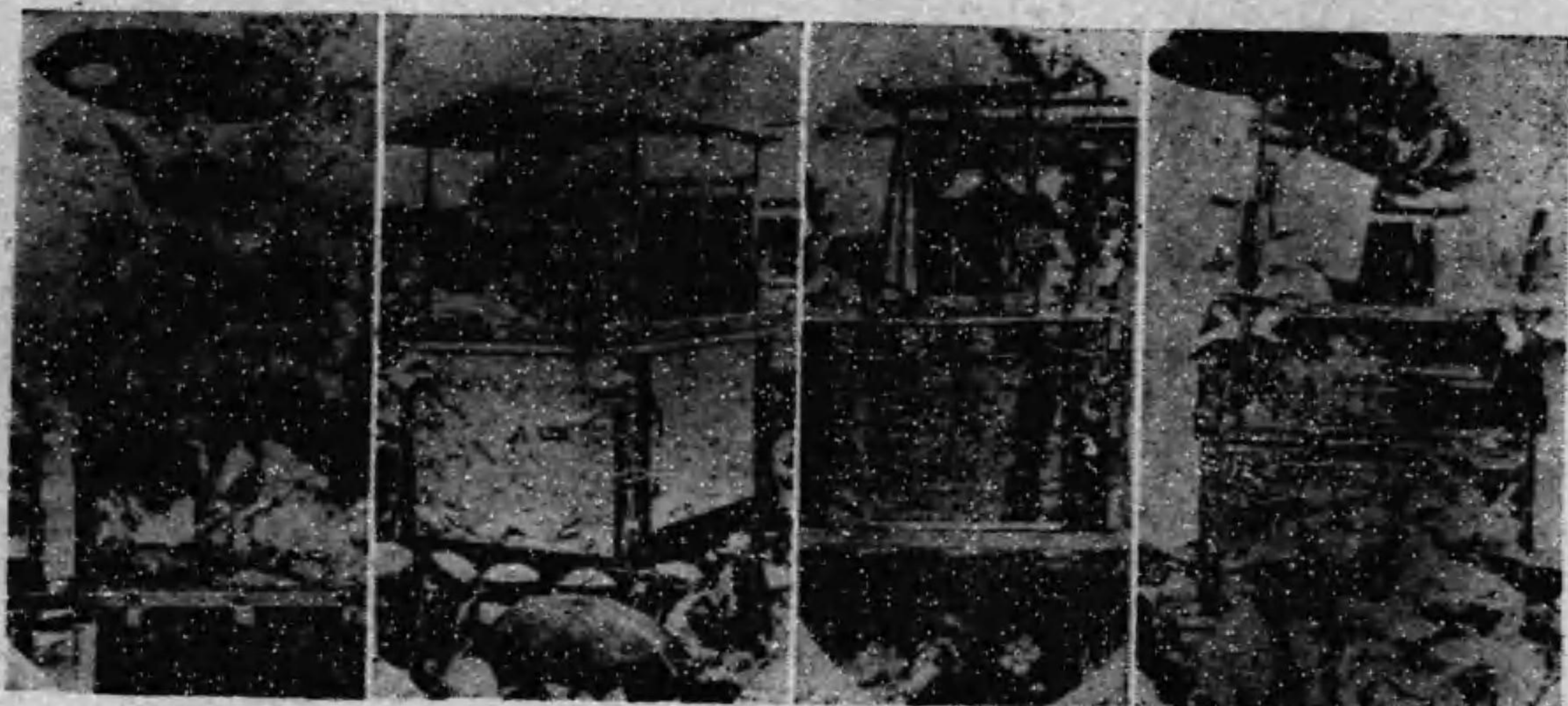
清涼季節

御菓子の御用は



鍵善本店

京都四條祇園町北側
電祇園 〇一八一七番
一八一八番



(山昌保) (山瓦郭) (山神天牛) (山子太)

牛天神山

うしでんじんやま

油小路綾小路南入 牛天神といふことは村上天皇天曆元年六月九日丑の日に遷座されてから言ふので又た山が油小路にある故に油天神ともいふ天神山は二つあるが見送りが菱錦で唐子遊びの圖であるのが此の山であり、鳥居の額は妙法院宮亮然親王の御筆

郭巨山

くわくきやま

俗にかまほり山 四條西洞院東入 唐の郭巨と言ふ人家貧しく母に仕へて至孝一人の愛子があるが之れを養育せんとす

れば母へ孝の妨げとなり老母が又た食を節して、孫に與へるのを見兼ねて遂に我が子を埋めて亡きものにせんと迷ひ心を生じ地を掘ると不思議にも梅が枝の手水鉢ならぬ黄金の釜が出でこの織札に孝子郭巨に黄金の一釜を以て汝に賜ふとあつたので之より子を埋める心を改め一層母に孝養をつくし、富貴の身となつたと言ふ故事が基である前掛びろどう織見送り緋錦の山水賢人の紋様、人形は寛政二年物巻の作胸掛けは石田幽汀の下畫、

保昌山

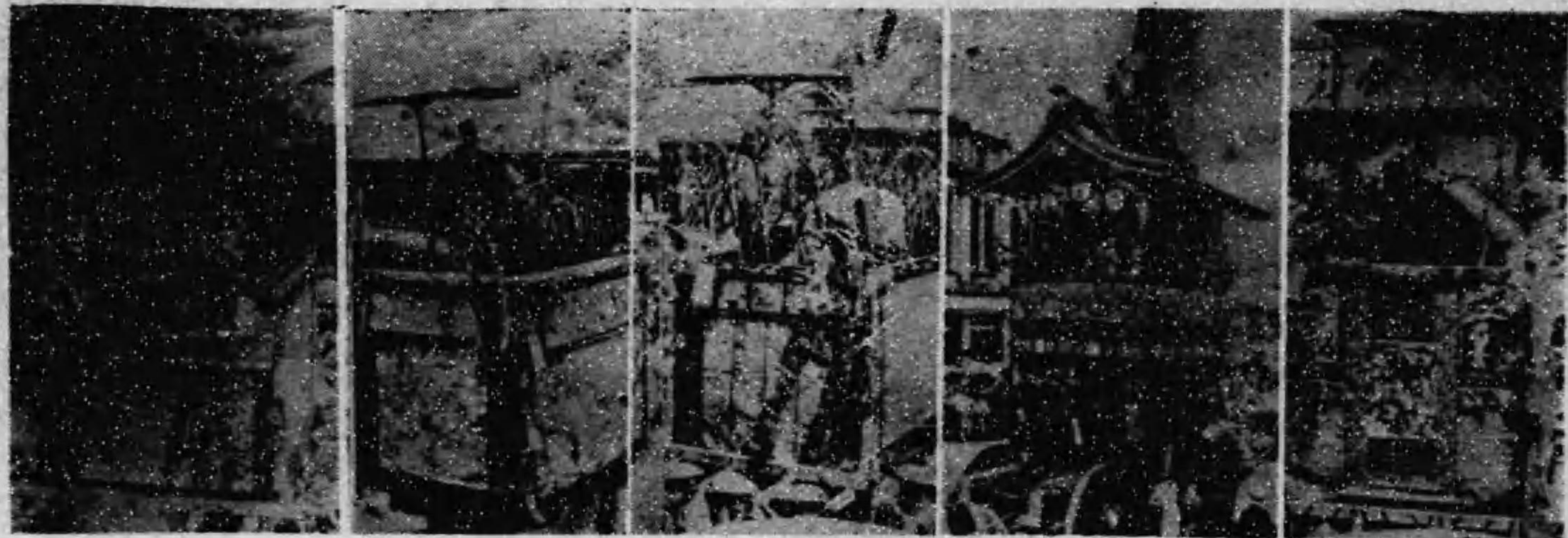
ほうしやま

東洞院松原北入 源の頼光の巨平井保昌がさる女官を想ひ、文を贈つたが其の女官は紫雲殿の花を折り取つて呉れたならば意に従ふとの返事であつた處から夜陰に其の花を手折つたといふ、挿話から成つた山で、朋暮は朝鮮錦獨紅錦、緞子唐織の四種で圓山應舉の下繪人形の刀とすね當は天下の絶品と稱讃され宛は明智十次郎所傳梅の枝は盗人除けと縁談成就の守、とのことである、見送は蝦夷錦水に龍の模様。

お祭見物のお歸りは

涼しい食堂の





(山宗孟) (山賊木) (山刈芦) (山戸岩) (山牙伯)

伯牙山 こむわりやま
綾小路新町西 支那の伯牙といふ人が親友の鐘子期と深い親友で、伯牙の琴の名人であるのを知り真に妙音を聴く者は

友の鐘子期唯だ一人であつたが此の鐘子期が死んだ爲めに伯牙は大に悲しみ遂に琴の絃を絶つた世に伯牙の音を知るものなしと仰つたのを示したもので前掛扇裏には蝦夷錦、見送りには唐渡の茶殿子、前掛は「一慶壽裂」といふ有名な裂地である

芦刈山 あしかりやま

綾小路西洞院西入 日本最初の小説竹取物語に次いで興味ある 風流な大和物語から出た今ならば人情劇の場面とも見たい、小波よする瀬波の浦で、ある貧しい男がその妻と別れ、蘆刈を刈つて生活する妻は都で官仕へする中、その主人に思はれて主人の妻の死後は遂に後妻となり圖らず出世の妻が難波の浦へ行つた時、以前の夫は蘆刈を擔ふて行くのに合ふ、男女共に恥づかしき思ひに男は更に身を恥じて立つ鳥と共に行方をかくしたといふ抒情的な山である諸曲の蘆刈も取材されて居る蘆は悪しき蘆刈を刈り取る心と見ればよい、扇巻は朝鮮錦であり見送りは支那製花鳥の絶品である。

木賊山 こくまやま

佛光寺西洞院西入 信濃の國伏屋の里の老人が我が子を人に誘拐され一人暮しく園原で木賊を刈つて居たが、其後現代で言ふ無料宿泊所を設けて我が子に遇ふのを樂しみつゝ暮らすうち都の僧がその子を連れて尋ね来り親子再會を喜ぶ所である諸曲木賊にもある通りである、扇巻は朝鮮錦、見送りは蝦夷錦、今も信濃の伏屋の里は布施村といひ布施宿として此の無料宿泊の所がある。

孟宗山 もうそうやま

烏丸四條北入 支那の呉の國の孟宗、字は恭武といふ人、母に至つて孝行で三冬寒雪の折母から竹を所望され孟宗は雪中に入つて求めたが竹の子がなく悲しむ折竹は自然に生じて手に入ることが出来母に満足させた孝行の美德を示す二十四孝物語から造られた結構な山であり、扇巻の轆幕は蜀紅錦で見送りはモールである。

紙團囃子の特技

祇園町で美人が囃子などすることゝを祇園囃子なんて考へられては、困つたものであれは祇甲はやしといふ可きで小説にもそれを混同して題することゝなつたが、元來祇園はやしは必ず男性がつめるを指して言ふので夕涼みの十分二十分、鈴の巡行の瞬間に通過する時位を聴いてチャ



ンチキチン位と合點さるゝが祇園囃子は各鉦ともに曲目三十幾種の以上になり、往きのはやし戻りの囃子の變化の妙、特に四條寺町角を四條より寺町へ廻るまでは悠々なチャララン、チャララン、チキチキチン、チキチンチキチン、チャララランと靜かに緩るく寺町通へ一廻轉すると共に急テンポの亂調子に一變する後妙なりズムは斯道の通人ならずとも感服させらるゝ處で之れを修練する

には五年六年でも會得されぬもので此のはやしの音律には病魔退散、怨敵降伏の祈念がこもり彼の佛法の觀音懺法より観案されたところがあるのである。

御家寶となり

御静座毎に

御感賞を蒙る

紀念と贈答には



刻彫料材物指 工細木唐

店商助之卯木高

番八一九一⑤下電 南寺光佛町寺市都京

風雅と精好品の高木

祇園祭御饗宴に……
納涼の御清宴には……
何卒弊家に御用命願上候

唐寧

三考家

京都八坂東山町五丁目
電話四三三〇



是れぞ絶讃を博する好評品

元賣發帳蚊立仕印鳥兒



有名小賣商店に販賣す

都京 三 條

店商德高

後の祇園會

各山々の由來と裝飾
(廿三日宵山廿四日巡行)



北觀香山

きたかんとおんま

新町六角南入 楊柳觀音の座像を安置し臨土善財童子を置く曳山で鈴の如く祇園雜子で巡行する此の觀音菩薩は元は惠心僧都の名作であつたが天明の大火に焼失し、今は大佛師法橋定春作、破風彫刻は天保四年片岡友輔の刀、下水引又た優秀である、眞松左の三の枝に尾長鳥を置き柳の木を生ける凡て楊柳觀音の御姿を示す見送りは綴れ錦唐子の遊び。



南觀香山

みなみかんとおんま

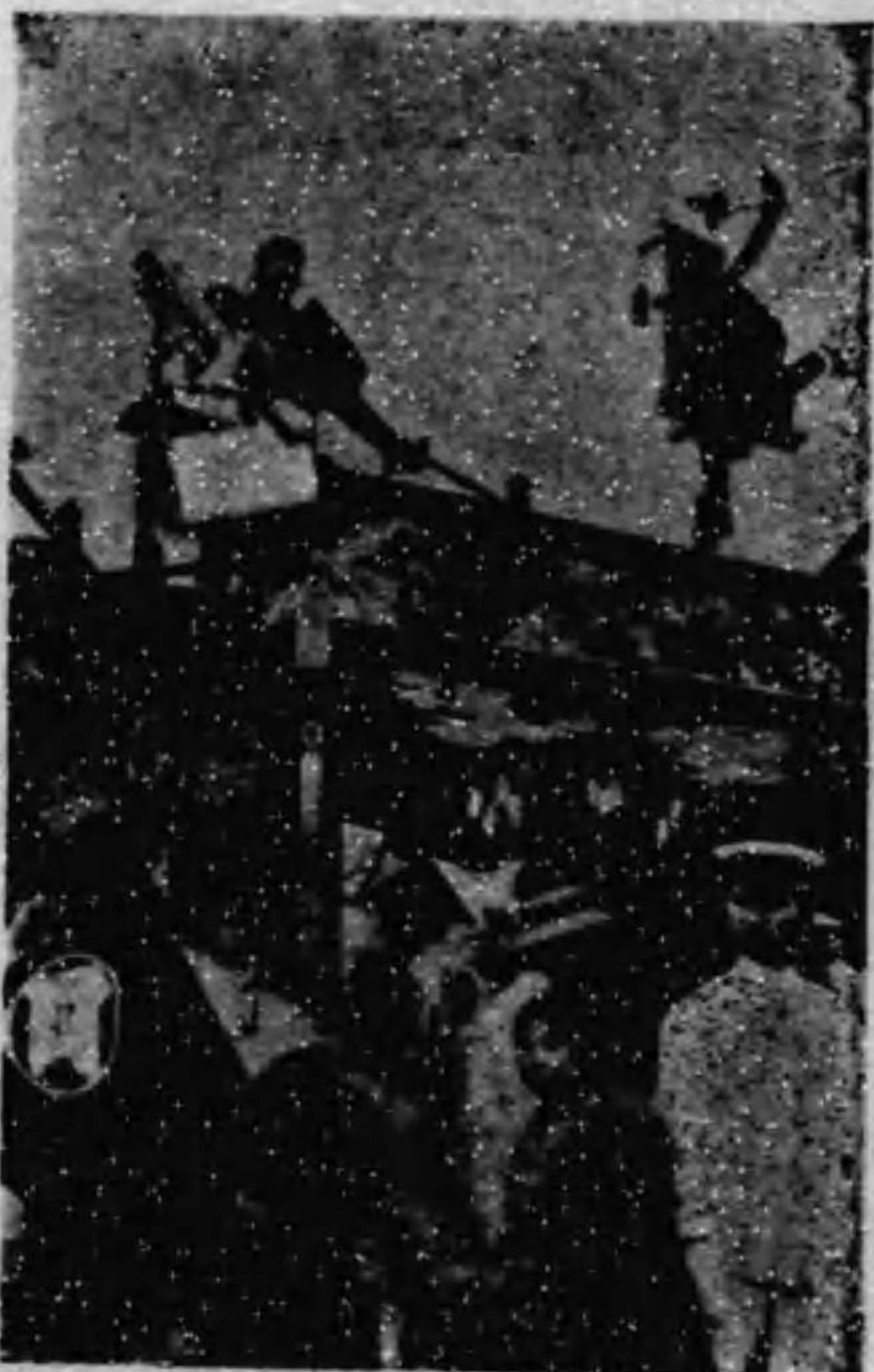
新町錦小路北入 町より出る、北觀香山と同じく楊柳觀音を安置す、異なる處は南觀香山は、菩薩が寶冠を被り居らるゝ所が違ふ、觀音のお首は古製にして臨土善財童子、見送りは雲中八龍圖支那製の絶品である。

各大本山 御用達 京佛師

佛像佛具莊嚴一品式

大野屋佛具店

寺町通佛光寺上
電話三三三六番



橋辨慶山 はしべんけいやま

銷薬師鳥丸西入 くじ取らずの山で牛若丸が五條橋上辨慶を取挫いで主従となる勇壯な人形で二體共に永祿六年七條の名佛師康運の作牛若は唐織錦の振袖、右手に太刀を抜いて持ち黒塗高足駄で欄干の擬寶珠の上に片足で立ち止まる、重い人形を僅か一本のあしだ金で保つてゐる、天文六年美濃右近の稀世の名作、太刀は又た盛光の名作、今は代りに近江守のを用ひ辨慶の衣裳は紺糸絨の大鎧に錦の直垂鉢巻長刀は美濃國住人兼明、今代用するは近江守久道の作、見送りの萬曆毬は優秀の傑作。

夏を楽しく

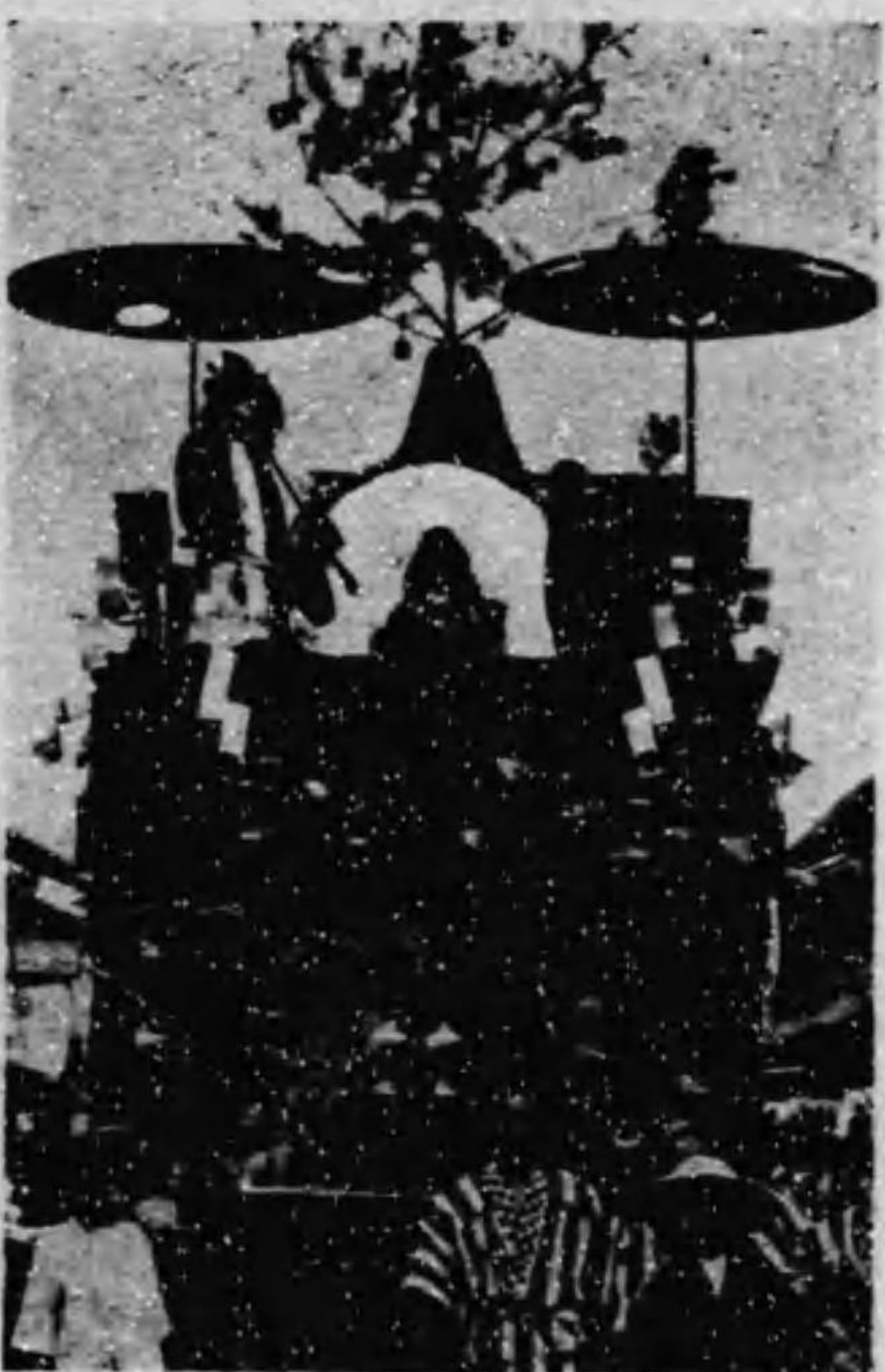
魅力ある

ふとん
かや

純良品の
御用命は先づ



南側 桐畑甚五郎



千三百年遠忌と

役行者山

えんぎやうじやま

大和國南葛城郡葛城村で今より千三百年の昔、舒明天皇の六年に出誕せられた役行者小角の神變大菩薩の偉徳懐仰の大法要を昨年聖護院門跡で慶讃の淨業として全國の末寺教徒が主体となり、仁王護國經の寫經埋納の大運動が卅萬人で行はれた、行者六十四才の文武天皇元年大和葛城山より金峰山に進む險路に石橋を架けんとせらるゝ故事のこの山に接することは意義ふかいものがある、即ち室町三條北入 町より出る山で役行者が大峰葛城山に石橋を架けん爲め一言主

命に命じ又は自在に神鬼を使役する神通力を示した所で役の行者は角帽子に白地錦の衣に紫の袈裟錫杖を持つて洞の中にあり、葛城の神即ち一言主命は紅地の小袖萌黄金紗の長絹、紅地菊菱の半切に手に輪寶と末廣を持ち女體なり、前鬼の衣裳は鶯色朝鮮錦の半切り白輪子の腰帶太刀を佩き頭は赤熊で手に斧を持つ技の一番水引は我國の綴錦で始めて織り出した最初の人、讃岐國多度郡粟生島の生れ幼年此の町内鍵屋嘉兵衛方に召し使れ後年案出した由緒ある水引で唐子遊びの紋様である。

文化三年四世靈夢に依り創始

天下一品

行者餅

一個 四錢



常は出来ませぬ例年七月廿三日だけ發賣

風味飛切製法神妙

本家 柏光定

京都姉小路新町角
電本②三六七八番

應仁の乱以前の古代

祇園山鉾のいろく
應仁の亂に燒失し中絶した惜しむ可き山鉾を探ねると可なり多数に上る、そして當時は鉾を「ほこ」と言はず「ほく」と讀み芦刈山の如き同名の山が二つもあり廿四日の後の祇園會にも今の如く山ばかりでなく鉾も五本も出た位であつたその時代に於ける重なる山鉾中にて今なきものは左の如くであるそして此の記事を載せるのは本社が最初である、

十七日の分

住吉山、綾小路油小路、鶴岡船山高倉綾小路章駄天山、錦小路東洞院、小督松明山、錦小路西洞院、芦刈山、四條猪熊西(今一つは現存)達磨鉾、油小路高辻、斧曳山、高倉五條、はね釣瓶山、東洞院綾小路、菊水鉾、室町四條北、花見の中羽山、烏丸四條南、蟻螂山、西洞院



四條北入、ひむつ山、綾小路萬里小路、地うこし鉾、綾小路西洞院等々
然して此當時は月鉾をかつら男鉾と呼び山伏山太子山も鉾であつたものらしく鉾の字が附されてゐる、二十四日の部には
弓矢鉾、姉小路新町、甲鉾、町名不詳、すてもの鉾、二條と押小路の間、那須の興市山、猪熊高辻、和泉小次郎山、室町二條北入、鷹使山、三條西洞院東入、太子鉾、押小路三條坊門の間、ふすま信山、三條猪熊、神功皇后山、新町四條南、柳の六尺山、高倉四條南、やうゆう山、三條烏丸西入、九條のかい山、高辻猪熊、西行山、天鼓山、芦刈山、ふたくし山等々
尙ほ今の常明山は當時常明坊山と呼び橋辨慶山も元は牛若辨慶山と稱したものであつた

御用品は多少ともに
多年の御好評蒙る
弊店を御利用願ひます
金銀箔鈔
蒔繪用金銀鈔



風屏

製 造 販 賣

印刷用金銀鈔
金屏風各種
蒔繪筆青貝
椿炭駿河炭其他
材料品一切

河本金鈔店

京都市上京區
鞍馬口烏丸西入
電話西陣④六六一二番
振替大阪一一九七四番

27 26

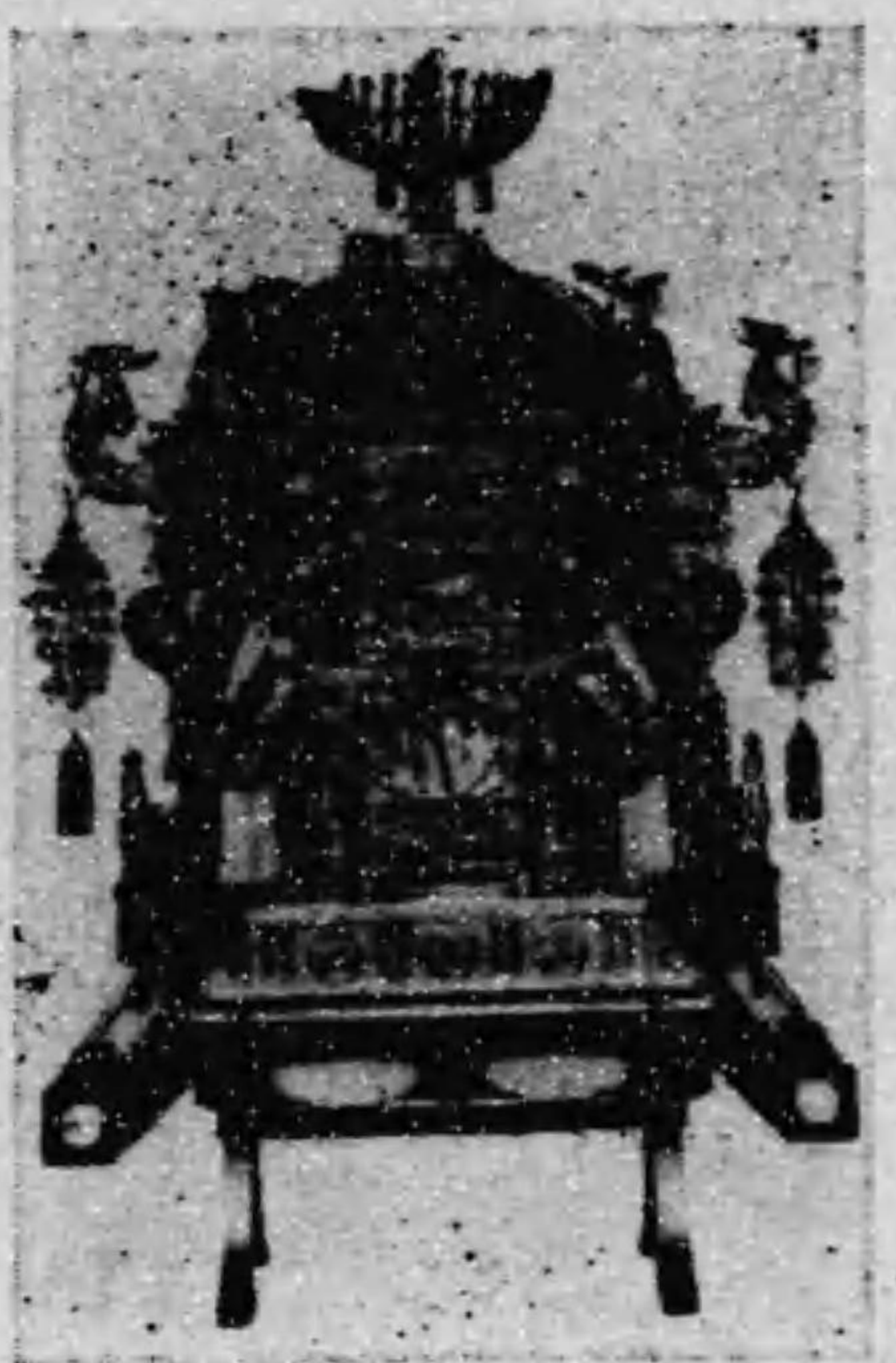
涼しくて新鮮な

夏の御清宴は



東山 つる家

京都東山安井境内
電話祇園⑥五七三番



御神輿の轎の鳥と稻

金光燦然、彌が上にも御神威輝く三基の御神輿のうち二基の屋根上にある鳥の鳥が稻を喰むことは如何にも平安守護の祇園大神の信仰者が大神に捧げる至情の床しさを表裏してなつかしいものである、増補祇園會細記に據ると「江洲篠原村の近村より出づるなり、此の稻は贈る村より直ちに祇園社へ送るに非らず、右の稻を送る村の長なる人往來に出で、佇み行人にその往く先きを尋ね、若しその人京都へ上ると答ふれば即ちその人に托し「京に上りたまはゞ此稻を祇園の御社に届け玉はるべし」と托し、待てども「京都行きの人なき場合は、今度は大津の宿まで托し更に大津より京都に到る人を選び待つて届ける例が守られ然かも何等異状なく到着したのも面白く、古人の眞情の床しい處が惚ばれる、更にさらにこの稻が神事の當日二三日前に必らず到達するも不思議なれば、何故近江の稻を轎の鳥に喰ますかは神祕として古文書にも記載

全國官幣社の特別之
御信仕を蒙り御神威戴く
神官裝束織物祭典用具各種
荒木伊助商店
京都市烏丸通三條北入、電話本局②一八七六

せぬが奉獻する村の稻が都合にて一年を越へて貯えられその翌年に及ぶも稻の色青々とし舊稻と新稻との識別されぬ程に保存さるゝも神輿の一つと感佩されたものであつた。



瀧の避暑や氷の山風

満目納涼の別天地

涼味あふるゝ

名所旅館
御料理

白糸瀧

洛樂園

京都北白川の里

電話上四四四二番
四四四二番

「庭園二萬坪八景の眺めあり」



御用の度に氣持良き

京都特産

打及物類

御花鋏 一式
吳服鋏

常久

打及物店

京都四條河原町交又點
電本局②一五八二番

29 28

祇園祭弦召の大將



鎧武者姿も勇ましい
「つるめそ」の故實

威風堂々、武者草鞋に鐵扇を持ち、
旗指物を風に靡かせ大團扇で煽がれ、
つゝ付鋭に笑を包む愛嬌者の行列の
御供「つるめそ」の鎧武者は祇園祭
禮の名物たる一景である、今も目
方は七八貫目に餘る歴代町の保存す
る本鎧を着けるにも故實があつて肩
ですかし目に緩く着用し、腹帯のと
ころでグツと締め上ぐる呼吸も六つ
かしく、大將始め平武者と使番とで
十七人汗だくも意に介せず四五貫目
の兜を冠り大將のみは烏帽子を載き

古來より依然として建仁寺町松原を
中心に東西南北四方に入った四ヶ町
を弓矢町と謂ひ、その中二十五軒の
家より抽籤にて奉仕するもので十七
日夕五時より廿四日は午後三時に町
内出發神輿に供奉し誓固して勇壯な
古武士風を展開することゝなる又
つるめそ即ち弦召の語原は往古五條
坂、今の松原通に常に弓矢を製作し
又た武門に出入して弓矢を専門に賣
り弘め賣聲の號召せがいつしか弦め
そと訛り改めたものと言ふ尙ほ風俗
は甲冑姿で不淨不吉を被らひ清むる
役目であつた。

特製四枚甲ハセ舞踊たび



重時 品質優秀 技術精巧

銅屋

京都四條河原町電話下三三五六

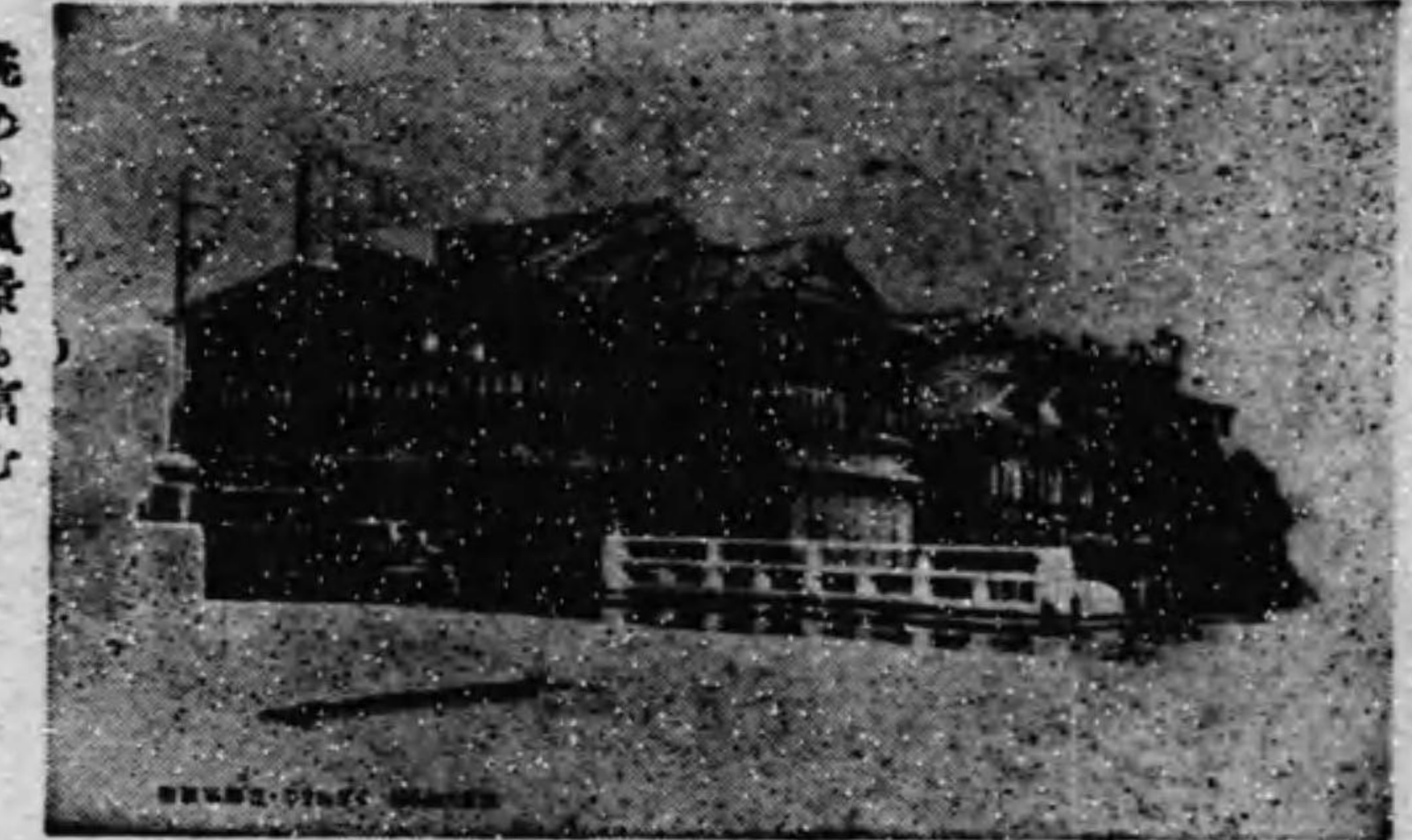
劇案大好評清涼夏たび



山鉾の巡行順
 祇園祭山鉾巡行順は十二日午前十時から各山、鉾町總代が市正廳に集合、抽籤を行つて次の如く籤なしの長刀鉾を筆頭にくり出すことに決定した

先の祇園會(十七日)
 長刀鉾▲葎天神山▲芦刈山▲郭巨山▲函谷鉾▲油天神山▲伯牙山▲太子山▲鶏鉾▲伯樂天山▲木賊山▲山伏山▲月鉾▲占出山▲保昌山▲孟宗山▲放下鉾▲岩戸山▲船鉾

後の祇園會(廿四日)
 北觀音山▲橋辨慶山▲鈴鹿山▲常明山▲役行者山▲黒主山▲八幡山▲鯉山▲南觀音山

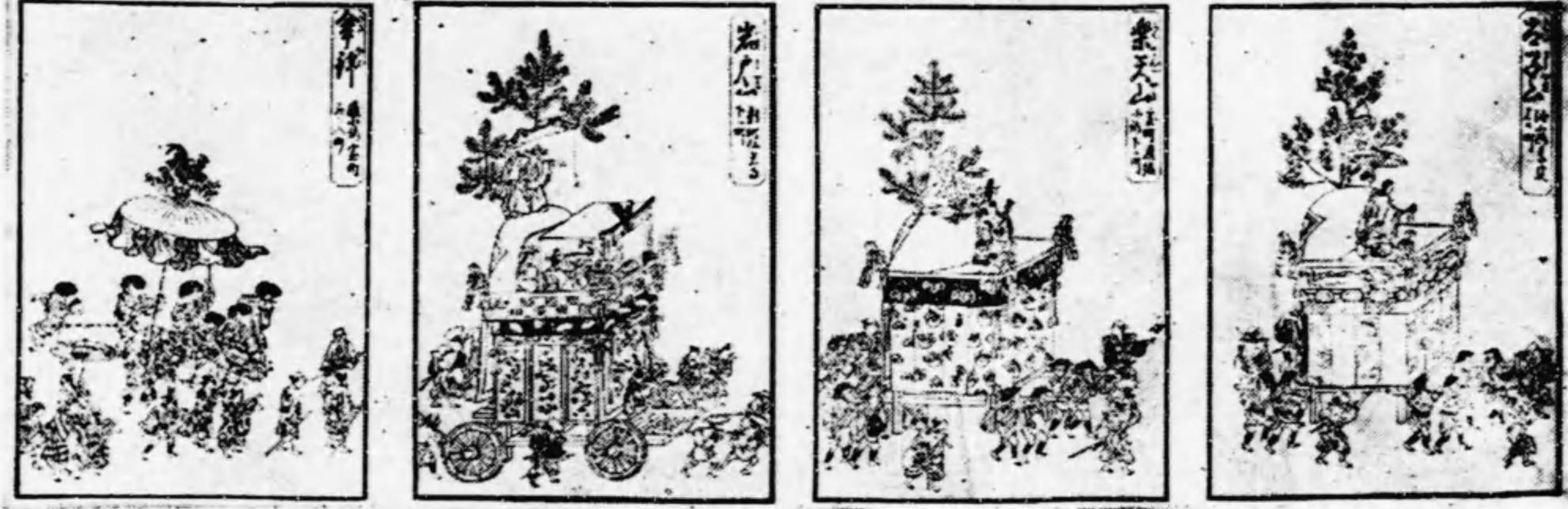


眺めも風景も富む

京の和宿は安心な

の確正ぬかつを嘘てし決
 亭きぬぎく
吉岡家旅館

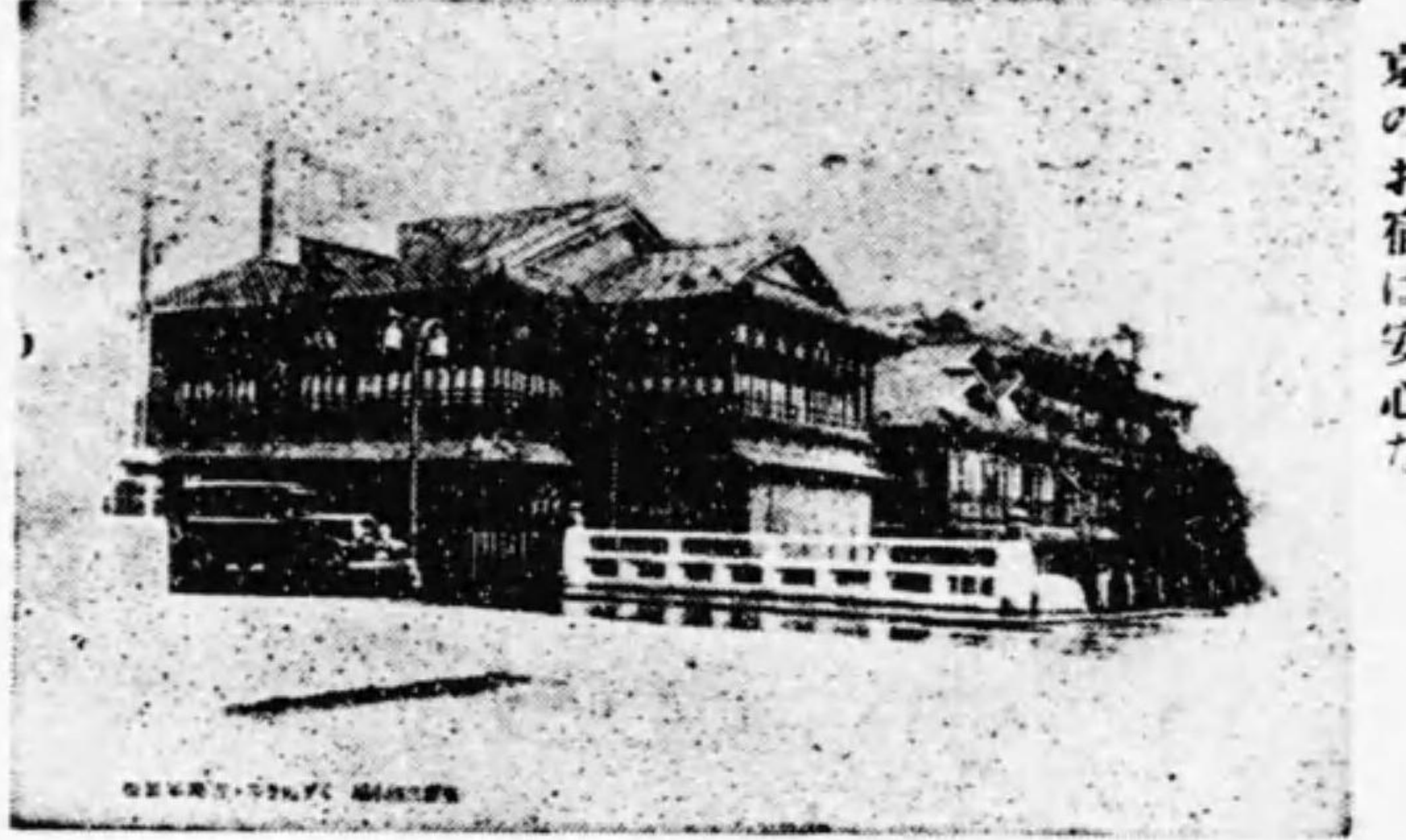
京 都 三 條 小 橋 畔
 電 話 本 局 一 三 六 八 番 一 三 六 九 番



後の祇園會(廿四日)
 北觀音山▲橋辨慶山▲鈴鹿山▲常明山▲役行者山▲黒主山▲八幡山▲鯉山▲南觀音山
 先の祇園會(十七日)
 長刀鉾▲霰天神山▲芦刈山▲郭巨山▲函谷鉾▲油天神山▲伯牙山▲太子山▲鶏鉾▲伯樂天山▲木賊山▲山伏山▲月鉾▲占出山▲保昌山▲孟宗山▲放下鉾▲岩戸山▲船鉾

山鉾の巡行順

祇園祭山鉾巡行順は十二日午前十時から各山、鉾町總代が市正廳に集合、抽籤を行つて次の如く籤なしの長刀鉾を筆頭にくり出すことに決定した



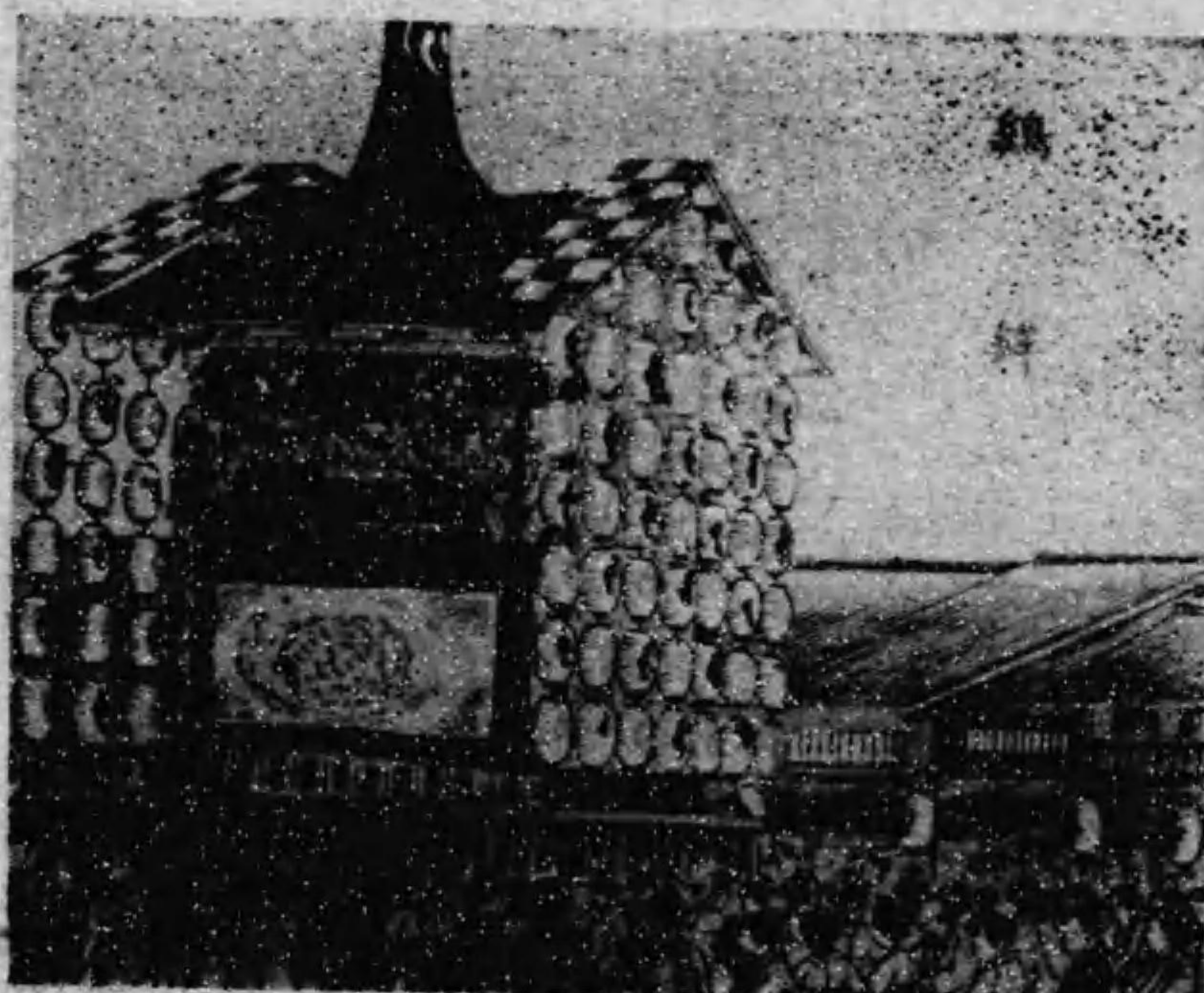
眺めも風景も富む

京のお宿は安心な

の確正ぬかつを嘘とし決
 亭きぬぎく

吉岡家旅館

京 都 三 條 小 橋 畔
 電 話 本 局 一 三 六 八 番 一 三 六 九 番



はドーコレと器名な妙靈

和洋諸樂器音器

アサノ樂器店

京都市今出川本東入

宵山の盛觀

「祇園會や京はまながら繪巻物」と我等も一句ものした如く、繪も詞にも及ぶ可からざる壯麗さは十一日の鉾に掲ぐる神祭の提灯も囁く如く京美人の團扇片手の漫ろ歩きを招き、祇園ばやしの音に姉の手を引き鉾見物をせき立てる子供も祭氣分を喰るものがあり、鉾の曳初めから宵山ともなれば氏子の街々は古代美術展覽會の如く金屏銀襖の繪畫は國寶にも準ずべき名畫を參觀自由たらしめ所謂お屏風拜見の床しさを展開し中天に輝、鉾は月の光りに反映し網かくしの赤毛氈は神紋白く浮き立ち囀子の音は涼しく夏の夜風に通ひ戸毎の綾幕銀燭にも神祭氣分と祭情緒を味得する事が出来る。かくて神幸祭の當日は神輿に先立ち

午前九時より四條、寺町、松原、新町の各通筋を長刀、函谷、月、鷲、放下、船鉾の六本に十三基の山が巡行する、その前進には一切の交通機關も停止し原始的に神代ながらの自然人となつて拜觀することの人の心に垢の宿るなく悪魔の浸潤する餘地を與えず打水に涼しき夕暮になれば弦召の鎧武者、神輿の渡御となり心氣を清めて神輿を送り迎へるその情景は神人一致の妙境であり優雅な大繪巻となつて敬すべく親しむ可き尊さに國際間にも日本の偉大さを示し立派なお祭外交を奏効し祇園會は一面國威を宣揚せりといふめでたいことにもなるのである。

32 A

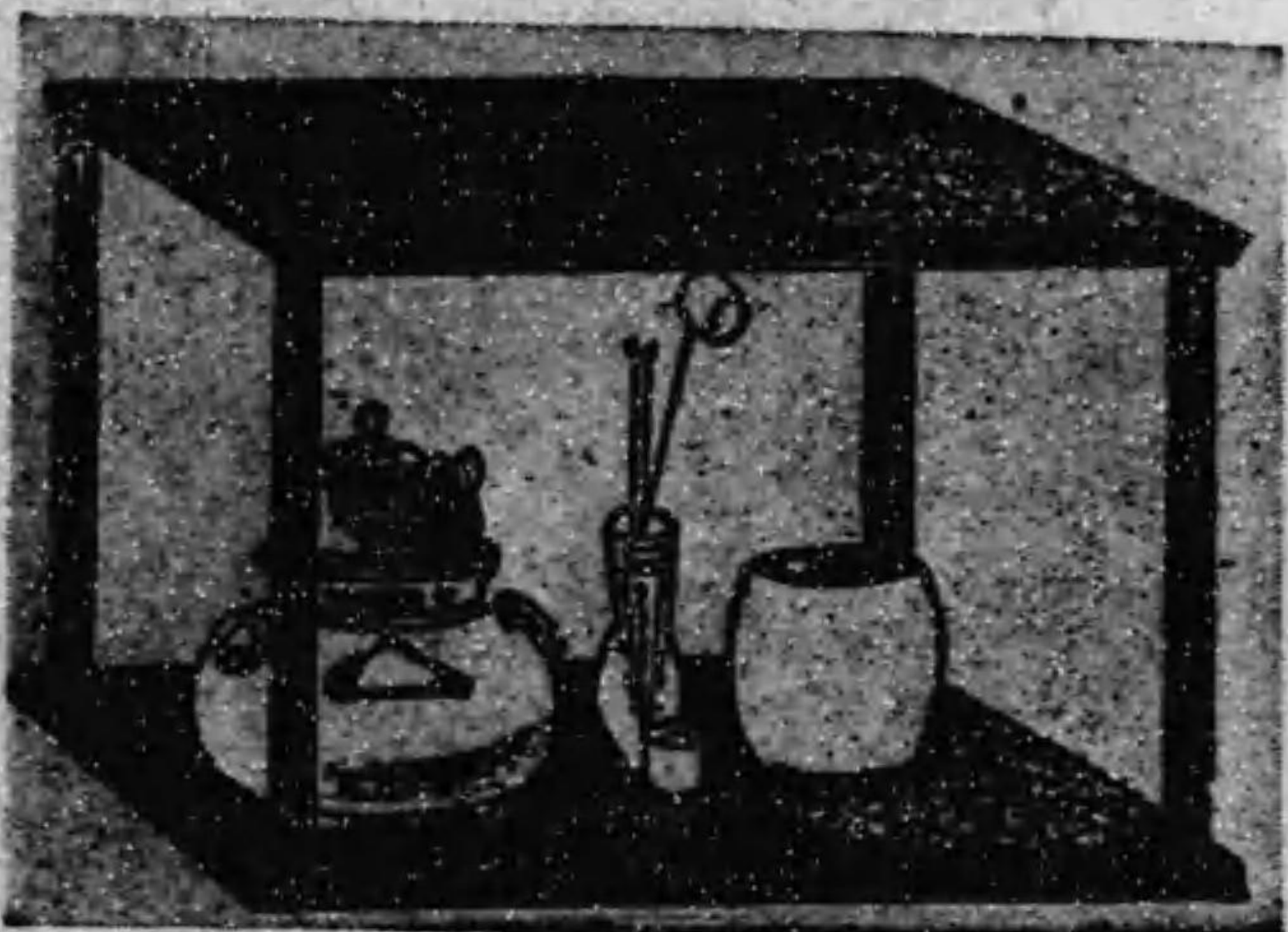


祇園の神紋

祇園大社の御神紋、木瓜と巴の御紋に就ては從來憶測のみで世人が了解せられぬやうであるから一言畧記する、(木瓜)もつこうの紋と思惟されて居るのは實は鳳凰の窠であつて窠形と言ひ住古主上禁裏より行幸し給ふ時、御佩用になる太刀を鳳凰頭の太刀と言ひその御太刀の鐔の處の形を指すのである。日本紀には頭槌の太刀とあり鳳凰の巢より飛び出した形を表象して造る、即ち鳳凰は長けれど天皇の御事に喰え奉つたものに外ならぬのであつて諸々の邪惡を殺ひ、御玉体守護の太刀として崇敬するが故に此意を体し武の大神の御神紋となし奉つたのである、彼の織田信長公も尾張國津島に祇園社の氏子であり幼時より尊信する處の御神紋を家紋とし御神威を拜受すべく信奉したもので公の功績を讃えて御神紋とされたといふのは誤傳である尙ほ巴の紋は水火の難を拂ひ清むる意がこめられて居る

主客御賞玩の

諸流茶の湯道具



岡丸屋

岡本八造

京都寺町高辻北入 電下⑥三〇五二番



久世の稚児

御神幸の十七日に御神輿が八坂大社を御出發になるには久世のお稚児がお社に到着なくば、一寸も動かすことがならぬ筈であつて之れには深い由來がある。

久世の稚児は一に駒形の稚児と稱し久世の國中神社の御神体である駒形を胸に捧持し御神前までも乗馬で社參、十七日廿四日の兩日神幸の列の最先頭に供奉するのであるが、此の駒形の由緒こそ長くも、八坂皇太神が神代山城の地未だ湖水であつた當時大神には水を切り地を開墾し給ひ、平野と遊された折、當國の中心と思召される所に符を残し給ふたのである、此符と遊されたものこそ取りも直さず大神が御愛馬、天の幸駒で御愛撫の餘り駒の頸を御親ら彫刻あらせられ新羅へ御渡海前、御形見と遣し給ひしものを御神体とするので最も久世の稚児の供奉には意義の深いものがあるを知らねばならぬ。



祇園會と加茂の夕涼

祇園會と夕涼みとは京の名物であり、日本趣味の美しく楽しいもの、小川のせらぎに心地良いリズムをつたへて白く照らす下加茂社頭の涼みは古典的に名高く、三條四條の不夜城を現出する夕涼みは優麗なる情景を描き、月の影と灯影いよ／＼、澄みて東山の墨繪に對し京名所風景は昔ながらになつかしく、梅は暗中の香を奪べど、納涼床は銀燭を得て涼しく銀盆が中天に懸つて東涯は淡く西涯は風情濃やかに、忍びて漏るゝ糸の音も夢路、誘ふ涼を加えて、やがて大文字のともる待つ宵も納涼臺に生まるゝ楽しい情緒ではある。

宵山のかへり、御神輿洗ひの夜、こゝ加茂の夕涼みに風流料理の座敷で繪を抜けてくる京舞妓の姿を銀扇でうつして見せるなど畫中の畫と陶酔させられる。

美味特選
會席料理

神樂

京都北野上七軒
電西陣④一八六九
一三〇九

四季の風流な飲料養生の子孫が營む



京都四條祇園石段下
原了郭

電話祇園二七三二番

百年來益々卓効と

名聲を持続す
一薬心身を活かす

京名物薬



正本家 藤村 壽榮堂
京都東洞院三條
振替大阪七〇九

354

京の美をさし表を現する
技術本位寫眞撮影
京風俗名所・京美人
繪葉書製元

美人堂

京都四條南座前
電祇園⑥二八三九番

和洋粧髮

御婚禮支度
訪問御仕度は



美粧俱樂部

本店 四條大丸前
電本局②二六九番
支店 今出川烏丸西
電西陣④七二七番
支店 大宮通五條上
電下④四三〇一番



久世の稚兒

御神幸の十七日に御神輿が八坂大社を御出發になるには久世のお稚兒がお社に到着なくば、一寸も動かすことがならぬ掟であつて之れには深い由來がある。

久世の稚兒は一に駒形の稚兒と稱し久世の國中神社の御神体である駒形を胸に捧持し御神前までも乗馬で社參、十七日廿四日の兩日神幸の列の最先頭に供奉するのであるが、此の駒形の由緒こそ畏くも、八坂皇太神が神代山城の地未だ湖水であつた當時大神には水を切り地を開墾し給ひ、平野と遊された折、當國の中心と思召される所に符を残し給ふたのである、此符と遊されたものこそ取りも直さず大神が御愛馬、天の幸駒で御愛撫の餘り駒の頸を御親ら彫刻あらせられ新羅へ御渡海前、御形見と遣し給ひしものを御神体とするので最も久世の稚兒の供奉には意義の深いものがあるを知らねばならぬ。

美味特選
會席料理

神樂

京都北野上七軒
電西陣④一八六九
三〇九

四季の風流な飲料義士の子孫が營む



京都四條祇園石段下
原了郭

百年來益々卓効と

名聲を持続す
一薬心身を活かす

京名物薬



正本家 藤村 壽榮堂
京都東洞院三條
振替大阪七〇九



祇園會と
加茂の夕涼

祇園會と夕涼みとは京の名物であり、日本趣味の美しく樂しきものの蟬の小川のせらぎに心地良いいリズムをつたへて白く照らす下加茂社頭の涼みは古典的に名高く三條四條の不夜城を現出する夕涼みは優麗なる情景を描き、月の影と灯影いよ／＼澄みて東山の墨繪に對し京名所風景は昔ながらになつかしく、梅は暗中の香を奪べど、納涼床は銀燭を得て涼しく銀盆が中天に懸つて東涯は淡く西涯は風情濃やかに、忍びて漏るゝ糸の音も夢路、誘ふ涼を加えて、やがて大文字のともるを待つ宵も納涼臺に生まるゝ樂しい情緒ではある。宵山のかへり、御神輿洗ひの夜、こゝ加茂の夕涼みに風流料理の座敷で繪を抜けてくる京舞妓の姿を銀扇でうつして見せるなど畫中の畫と陶酔させられる。

京の美しさを表現する
技術本位寫眞撮影
京風俗名所・京美人
繪葉書製元

美人堂

京都四條南座前
電祇園⑥二三八九番

和洋粧髮
御婚禮支度
訪問御仕度は



美粧俱樂部

本店 四條大丸前
電本局②二六九番
支店 今出川烏丸西
電西陣④七二七番
支店 大宮通五條上
電下⑤四三〇一番



祇園會夜の追憶

京都で祇園と言ふ響ほど魅力を持つた名はないと思ふ、祇園まつりや夕涼、そして祇園の美女は云はずもあれ昔の美女の代表祇園女御の思ひ出や祇園祭の神輿洗ひの十日と廿八日に行はれた祇園美人の藝舞妓が列を組んで八坂神社に参詣するに趣向を凝らしたねり物はさしもの祇園祭の賑ひを懸する人氣を呼んでこの通行の町々は将を結び其の混雑を防いだ位であり之れが起源は今より二百廿年以前の寛永年間頃であつたと云はれ明治十五年迄も行はれて中絶し明治廿六年久々再興し今日は又た廢絶したがその装や道中の技藝の立派さは今も語り草となつて居る又た神輿洗ひの夜の祇園無言詣なども情緒を深めるもの、一つであるが七月一日より八月末日へかけての四條河原の納涼は祇園祭を中心とするだけに身動きもならぬ賑ひを呈し、往古は四條河原に各々出店を設け婦女子は今の大原女のやうに合の如きものを

頭にかけて賣廻つたものが追々と廣がり床几を運び丸行燈を點じ延寶、享保の頃から兩岸の川端より掛け出しを設け涼み欄を築し水中に足を浸しつゝ盥を洗ふの風流とはなり涼みがてらの戀の掛橋ともなつた竹村家橋から今の京阪電車の走つてゐる堤には床几もギツシリ、ところ天や甘酒冷酒燗酒を賣つていかにも寛ろいだ氣分の納涼情景もなつかしく、萬點の灯影の水に映じたのも餘り遠い昔でなく祇園祭の夜を楽しんだ唯一の場所でもあつた。

涼味湧き立つ

街の避暑地

お祭見物に御散策に
氣分も楽しき喫茶店



若狹屋福助

京都寺町四條南入
電話本局五四九三番
本店 四條大宮南側



古式圓取り風景

朱の大傘、鐵棒の響きリン／＼と清々講社の役員の前、高位のお歴々参觀のうち、晴れの一文字笠に袴姿も甲斐／＼しく緋房の文箱を捧げて風流な手際で圓の順香札を取り出し、一步二歩と進む足取りにも細心の工夫が凝され房捌き足どりの大見得の極りにも劇的氣分のある、古式くち取式は毎年ながら高尙なうちにナンセンス味もあつて一抹の涼味を呼び見物の最も悦ぶものである。その昔は六月六日の六つの刻限に洛中の六角堂で六つかしい規定の許に行はれたが今は山鉾巡行の目貫きの町内のうち名家の前で執行されるのであつて本年は十七日の方は四條通柳馬場東入、京人形京漆器の重鎮田中彌兵衛氏方で催され廿四、日の方は三條高倉西入高徳商店前で舉行されることゝなつた。

暑中にお祭に

御贈答は

銘菓 梢の月
長崎カステール
別製 夜の梅
風流 懐中善哉



別製 煉羊羹
銘菓 西影
京一流 名物
製造販賣元

京都四條大宮南側
名物そば餅本舗

若狹屋

電本局四二七五番



祇園會夜の追懐

京都で祇園と言ふ響ほど魅力を持つた名はないと思ふ、祇園まつりや夕涼、そして祇甲の美妓は云はずもあれ昔の美女の代表祇園女御の思ひ出や祇園祭の神輿洗ひの十日と廿八日に行はれた祇園美人の藝舞妓が列を組んで八坂神社に参詣するに趣向を凝らしたねり物はさしもの祇園祭の賑ひを醸する人氣を呼んでこの通行の町々は埒を結び其の混雑を防いだ位であり之れが起源は今より二百廿年以前の寛永年間頃であつたと云はれ明治十五年迄も行はれて中絶し明治廿六年久々再興し今日は又た廢絶したがその装や道中の技藝の立派さは今も語り草となつて居る又た神輿洗ひの夜の祇園無言詣なども情緒を深めるものゝ一つであるが七月一日より八月末日へかけての四條河原の納涼は祇園祭を中心とするだけに身動きもならぬ賑ひを呈し、往古は四條磧に各々出店を設け婦女子は今の大原女のやうに台の如きものを

頭に載せて賣廻つたものが追々と廣がり床几を運び丸行燈を點じ延寶、享保の頃から兩岸の川端より掛け出しを設け涼み棚を架し水中に足を浸しつゝ盃を洗ふの風流とはなり涼みがてらの戀の掛橋ともなつた竹村家橋から今の京阪電車の走つてゐる堤には床几もギツシリ、ところ天や甘酒冷酒燗酒を賣つていかにも寛ろいだ氣分の納涼情景もなつかしく、萬點の灯影の水に映じたのも餘り遠い昔でなく祇園祭の夜を楽しんだ唯一の場所でもあつた。

涼味湧き立つ

街の避暑地

お祭見物に御散策に
氣分も楽しき喫茶店



若狭屋福助

京都寺町四條南入
電話本局五四九三番
本店 四條大宮南側



古式圖取り風景

朱の大傘、鐵棒の響きリン／＼と清々講社の役員の前前、高位のお歴々参觀のうち、晴れの一文字笠に袴姿も甲斐／＼しく排房の文箱を捧げて風流な手際で圖の順番札を取り出し、一歩二歩と進む足取りにも細心の工夫が凝され房捌き足どりの大見得の極りにも劇的氣分のある、古式くち取式は毎年ながら高尚なうちにナンセンス味もあつて一抹の涼味を呼び見物の最も悦ぶものである。その昔は六月六日の六つの刻限に洛中の六角堂で六つかしい規定の許に行はれたが今は山鉾巡行の日貫きの町内のうち名家の前で執行されるのであつて本年は十七日の方は四條通柳馬場東入、京人形京漆器の重鎮田中彌兵衛氏方で催され廿四、日の方は三條高倉西入高徳商店前で舉行されることゝなつた。

暑中にお祭に

御贈答は

銘菓 梢の月
長崎カステーラ
別製夜の梅
風流 懐中善哉



別製煉羊羹
銘菓 影
京一流名物
製造販賣元
京都四條大宮南側
名物そば餅本舗

若狭屋

電本局四二七五番



愛宕千日詣と

愛宕電線風景

觀光フワソンの大喜悅探勝の定連にも強い刺激ともなり、夏期には清新な感興を昂奮させ、沸騰せる苦熱より離脱して涼爽の天地に闊歩せしめるもの京洛に於ける鎮夏の代表地愛宕山に然くものなく、千日詣の盛観に人の海の渦巻も亦た一種の痛快な納涼感さへ湧く、

海拔三千尺の高峰、神氣の高爽自らなる大納涼場とし其の機構に、沿道風景に雄大なる施設と人工美自然美の融合した愛宕ケーブルの壯絶の觀望は東洋に於ける王冠を飾るもの別けて神秘的畫趣に優る山上に婉々と登る七月三十一日の夕景より八月一日にかけての千日詣の靈感と満山信仰で埋れる所に老杉古檜の蔭に天幕村あり、空也の瀧の時雨の瀧あり愛宕ホテルの展望あり山上の飛行塔よりも瓦解の清風を送り四顧の大觀、靈氣の山色は眞に對比するものなく全線納涼殿の情景は又格別だ。

明石の本場

生魚の調理
京すしの生粹

鮮魚料理
お壽司

浪花家

京都市千本中立賣南
電西陣④一三六八番

一々得心のゆく

確乎たる解決と

新氣運を示教し

幸運の扉を開かん

百發責任鑑定

周易百般
家相方位

京都裏寺町蛸薬師角

顯眞館

電本局五九七六番



(り透見織ソラブゴ鉾織るな秀優も最)

る薫に海四聲名
品用毫揮書



入北條二町寺都京

店支都京園梅古

具文香硯墨筆

番一三五③上話電
番三七四七京東替振



愛宕千日詣と

愛宕電鐵風景

觀光フワソンの大喜悅探勝の定連にも強い刺激ともなり、夏期には清新な感興を昂奮させ、沸騰せる苦熱より離脱して涼爽の天地に潤歩せしめるもの京洛に於ける鎮夏の代表地愛宕山に然くものなく、千日詣の盛観に人の海の渦巻も亦た一種の痛快な納涼感さへ湧く、

海拔三千尺の高峰、神氣の高爽自らなる大納涼場とし其の機構に、沿道風景に雄大なる施設と人工美自然美の融合した愛宕ケーブルの壯絶の觀望は東洋に於ける王冠を飾るもの別けて神秘的畫趣に優さる山上に婉々と登る七月三十一日の夕景より八月一日にかけての千日詣の靈感と満山信仰で埋れる所に老杉古檜の蔭に天幕村あり、空也の瀧の時雨の瀧あり愛宕ホテルの展望あり山上の飛行塔より萬斛の清風を送り四顧の大觀、靈氣の山色は眞に對比するものなく全線納涼殿の情景は又格別だ。

明石の本場
生魚の調理
京すしの生粹
鮮魚料理
お壽司

浪花家

京都市千本中立賣南
電西陣④一三六八番

一々得心のゆく
確乎たる解決と
新氣運を示教し
幸運の扉を開かん

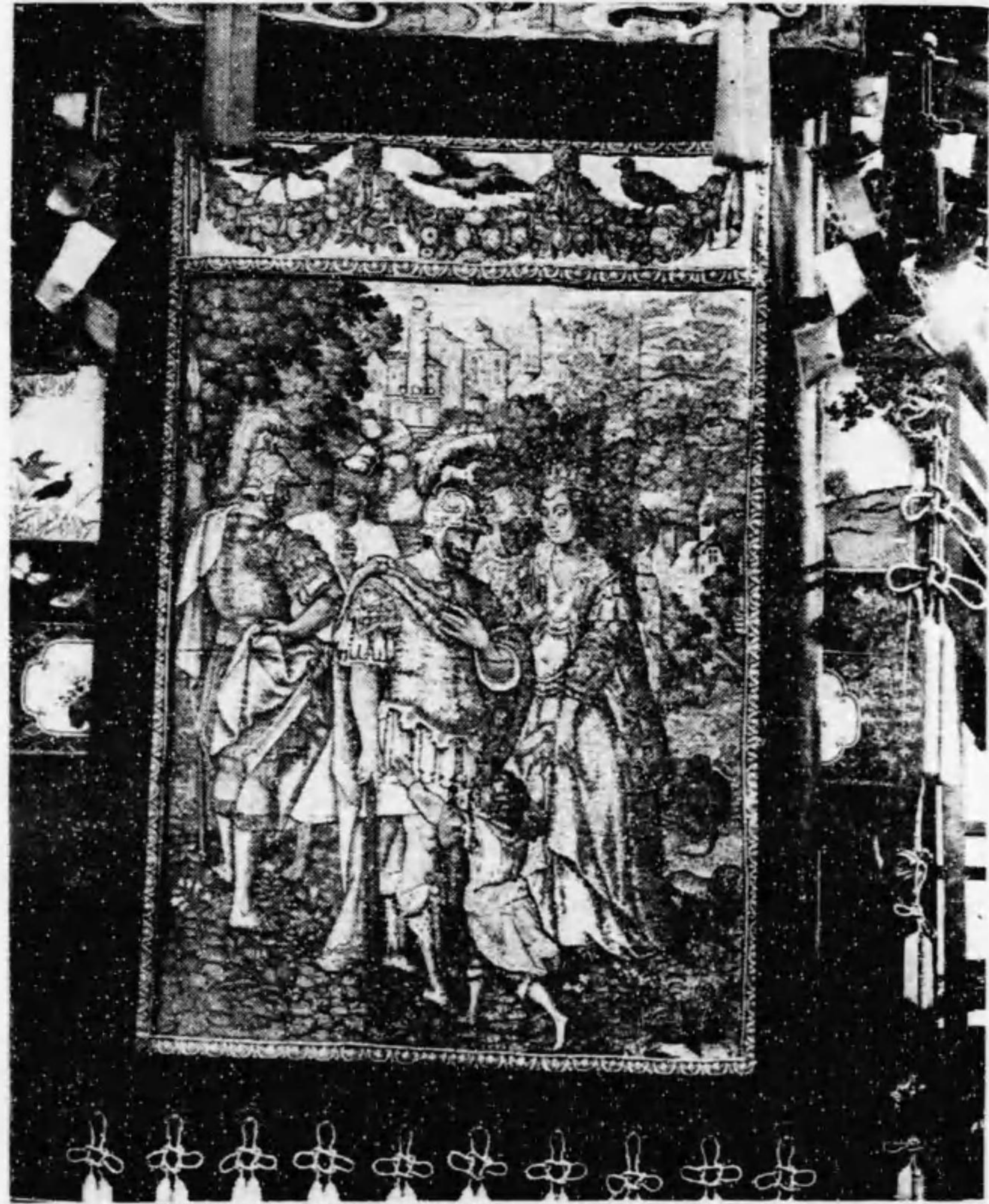
百發責任鑑定

周易百般
家相方位

京都裏寺町蛸薬師角

顯眞館

電本局五九七六番



(り送見織ンラブゴ鉦鶏るな秀優も最)

名聲四海に薫る
書畫揮毫用品



京都寺町二條北入

古梅園京都支店

筆墨硯香文具

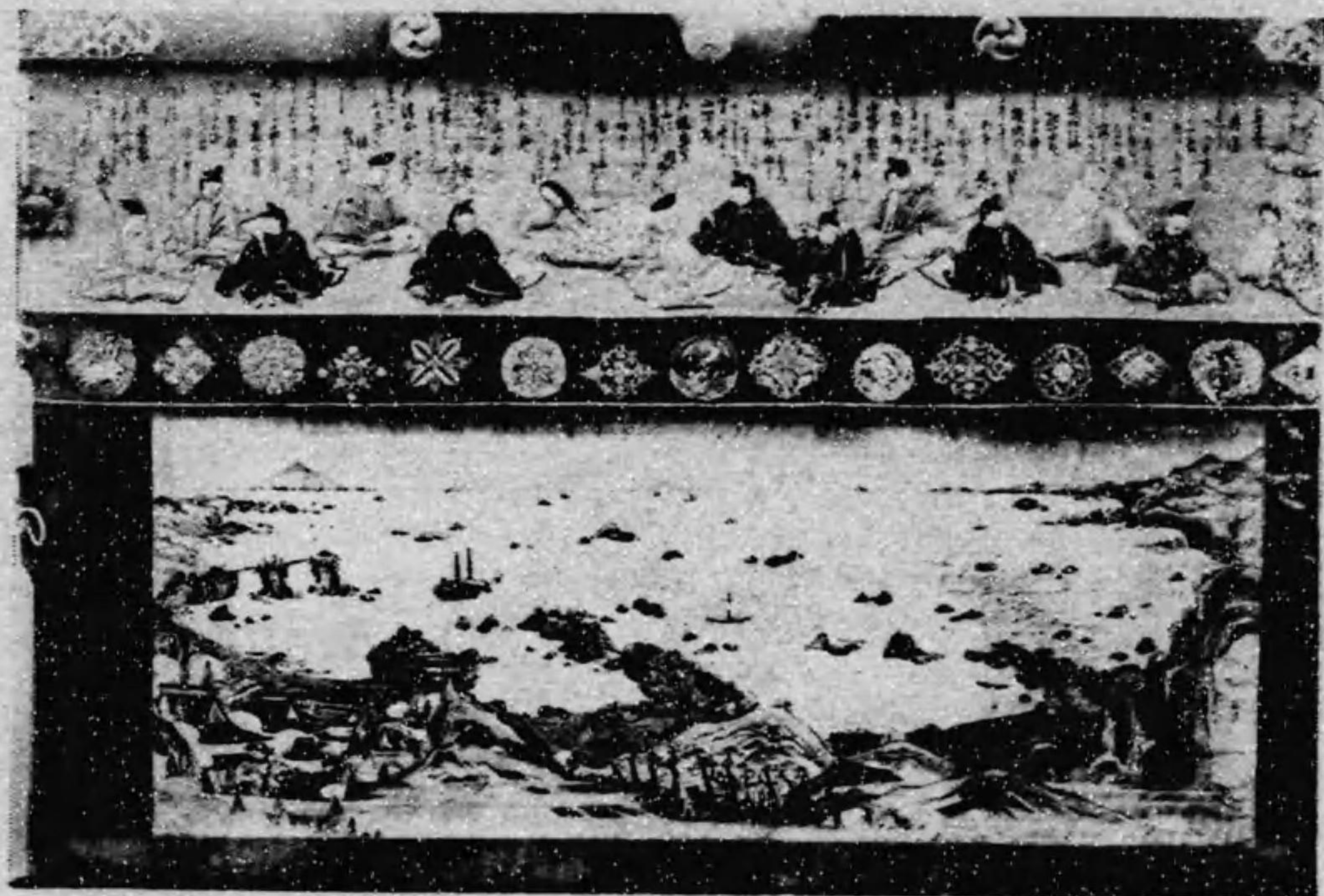
電話上③一五三番
振替東京七四三番



菊水煎餅

風味千載に芳しく
榮養萬人に賞せらる

老舗 京都市寺町夷川
本舗 京都四條芝居前



(掛扇山出占)

41 40

本家 大原女家

京都四條祇園町
電話祇園⑥一九〇五番



祇園情緒深く、風味も上乘の



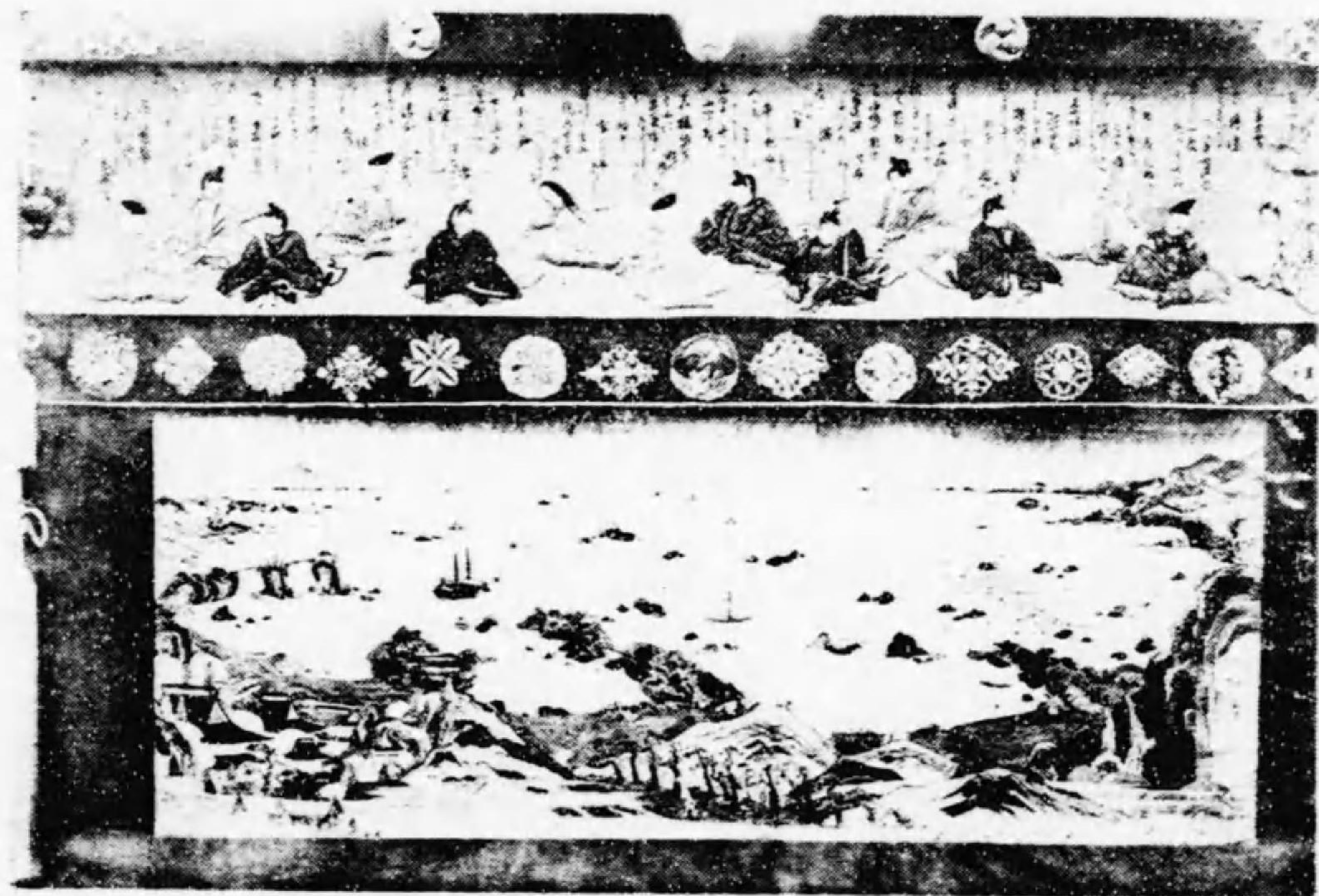
(り送見山籠)



風味千載に芳しく
榮養萬人に賞せらる

菊水煎餅

老舗 京都市寺町夷川
本舗 京都四條芝居前



(掛洞山出古)

41 40

本家 大原女家

京都四條祇園町
電話祇園⑥一九〇五番



祇園情緒深く、風味も上乘の



(り送見山鯉)



風味随一にすぐれた
伊勢のおみやげは



惠比須屋の

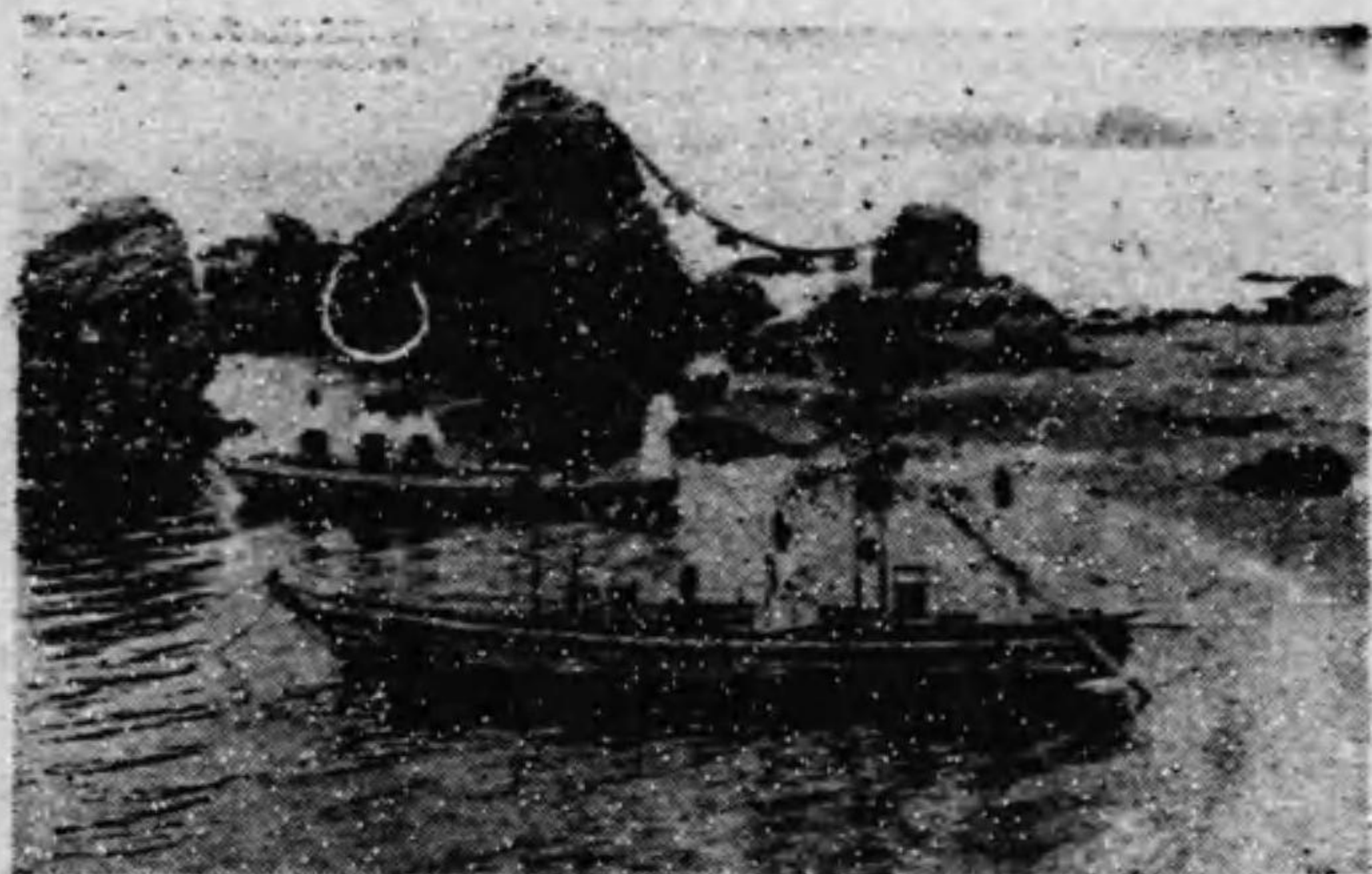
生姜糖

本店 伊勢二見浦
電話 六六番
支店 四三番

名物中の傑作として
高貴の御座にも御賞味蒙る
名物の代表品



43 42



海濱パラダイスの
二見海水浴

本年の二見は景氣振興、酷熱克服の根源地となる親を呈し敬神思想も加味された海濱には餘興もあり、七月十一日の高松稻荷神輿の渡御や、例の古市の盆の活人形趣向、郷土藝術の盆踊、大仕掛花火も附近より催され、二見海濱は同町のサーピスで宛然海濱パラダイスを現出し、二見興玉神社の天の岩戸より夫婦岩、奇岩と海岸とを漫步するも面白く海水浴客に對しては超特優待し、特に二見新名物の人氣の花形、二見空中ケールで涼風満々、昔無山に登つて山上の遊戯場、料亭休憩所で二見風景を味ふは無比の壯快味があり、夕宵の頃星斗に月さへ加り燦然たる寶玉をちりばめた二見の夜景など新境地を探る愉快さは言語に絶するものがある尚ほ二見一泊には名物旅館の麻野館の親切さをとるべく例の海女の活躍を見せる水族館にも是非寄ることである。



結納

福田松花堂

東京都河原町四條上ル
電話本局二〇〇九番



風味隨一にすぐれた
伊勢のおみやげは



惠比須屋の

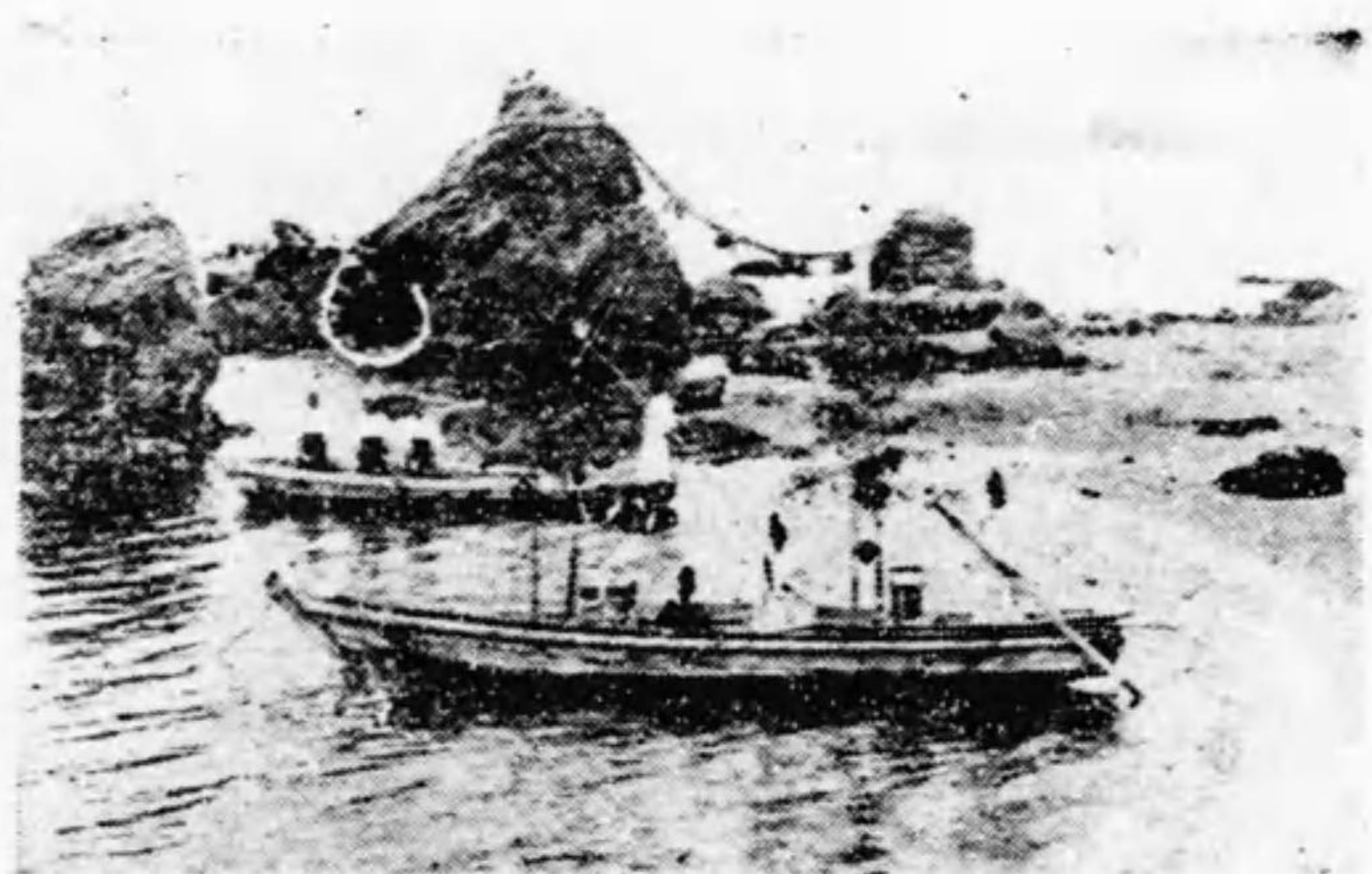
生薑糖

本店 伊勢二見浦
電話 六六番
支店 四三番

てしと作傑の中物名
る蒙味賞御もに座御の貴高
品表代の物名



43 42



海濱パラダイスの
二見海水浴

本年の二見は景氣振興、酷熱克服の根源地となる觀を呈し敬神思想も加味された海濱には餘興もあり、七月十一日の高松稻荷神輿の渡御や、例の古市の盆の活人形趣向、郷土藝術の盆踊、大仕掛花火も附近より催され、二見海濱は同町のサーピスで宛然海濱パラダイスを現出し、二見興玉神社の天の岩戸より夫婦岩、奇岩と海岸とを漫步するも面白く海水浴客に對しては超特優待し、特に二見新名物の人氣の花形、二見空中ケールで涼風満々、音無山に登つて山上の遊戯場、料亭休憩所で二見風景を味ふは無比の壯快味があり、夕宵の頃星斗に月さへ加り燦然たる寶玉をちりばめた二見の夜景など新境地を探る愉快さは言語に絶するものがある尙ほ二見一泊には名物旅館の麻野館の親切さをとるべく例の海女の活躍を見せる水族館にも是非寄ることである。

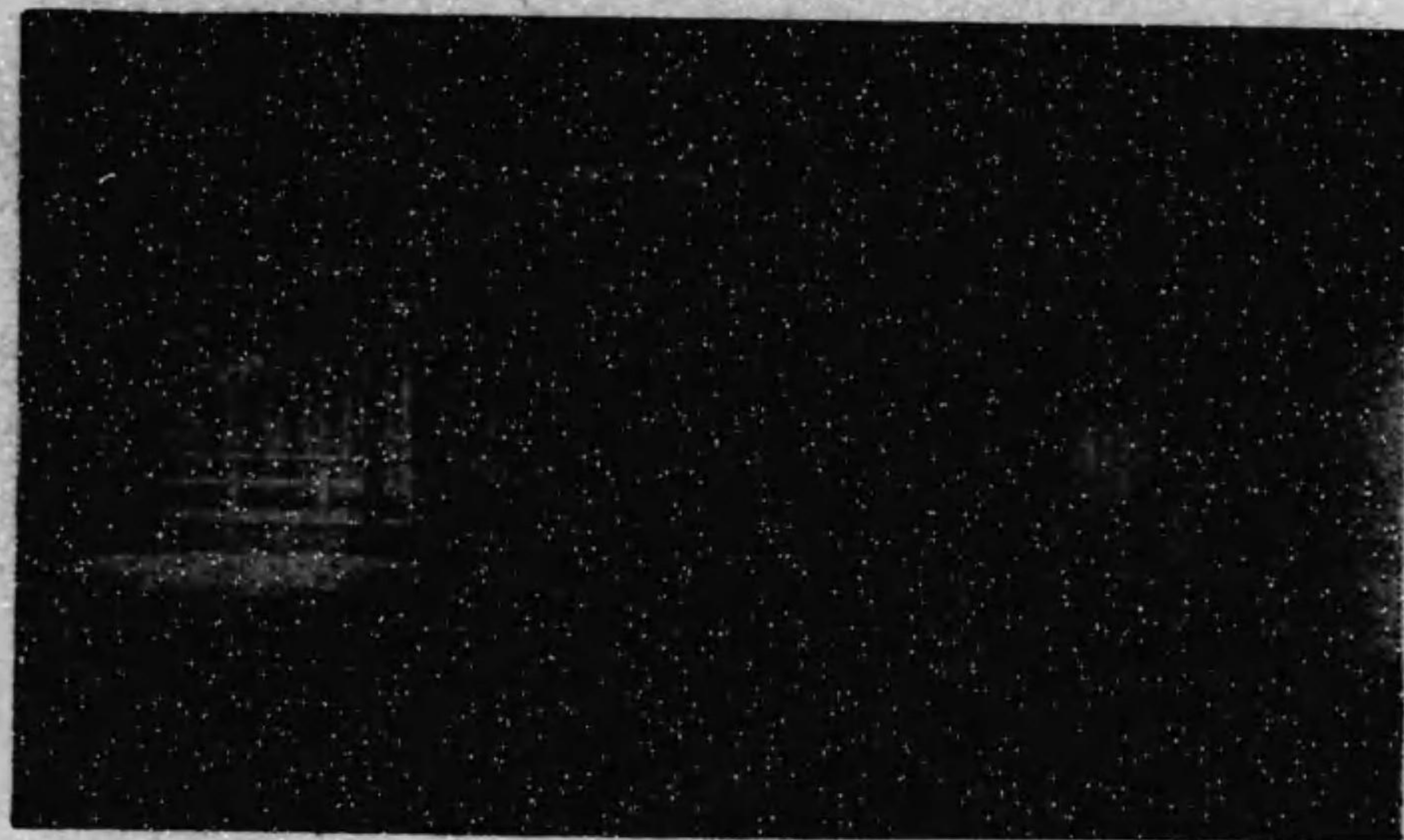


結納

堂花松田福

ル上條四町原河市都京
番九〇〇二②局本話電

へ垣大都水は涼納の夏今



(間廣の樓岡吉垣大)

弊樓記念館樓上の格天井は東京畫壇の一流畫家名士百數十氏の揮毫により眞に天下の誇と御賞讃蒙り居候

水都大垣の清風は水の如く養老の御清遊は格別の妙趣有之候餘興には養老踊の上演仕可候

館旅理料御

園公老養

樓 歲 千

支店

番八老養話電
番八一田高話電長

烹 割

園公市垣大

樓 岡 吉 本店

番八七一話電長
番九七一話電

45 44



涼味天國絶讚の 朝熊山の大避暑

空に満月の懸らぬ夜も無数の電扇と海光の映發に湖風を孕んだ大氣と二千尺高峰のオゾンの發生とに澄み渡り、大暑も八十度以上に昇らぬ絶讚の避暑地、朝熊登山の大觀望は恐らく納涼旅行の最高を意味し、積極的安息所たり風光美の雄大さは億測の許す處でなくあさまケイブルで一瞬に登山すれば金剛の如き健康をめぐむ本山金剛證寺は山上に在つて、千山萬水を窓に見せて走るあさま自動車は納涼ドライブの王座であり、古典味と由緒悠久な寺寶を拜觀するも亦た涼味あり特に本尊の偉徳に利生を授つての歸途とうふ家の名物旅館に入り、山の幸海の幸との名献立になる同樓の人となつて山氣と神氣を味ひ、殊に曙光の美は冷涼の朝氣分と共に永き印象となつて何人も忘られることではない。

き活に仰信

るすと命生を活快の分氣御

食一日今物名

堂 食 阪 京

(前阪京)畔東橋大條三都京

番一七三三〇圖話電

創業五百有餘年

日本名物藥

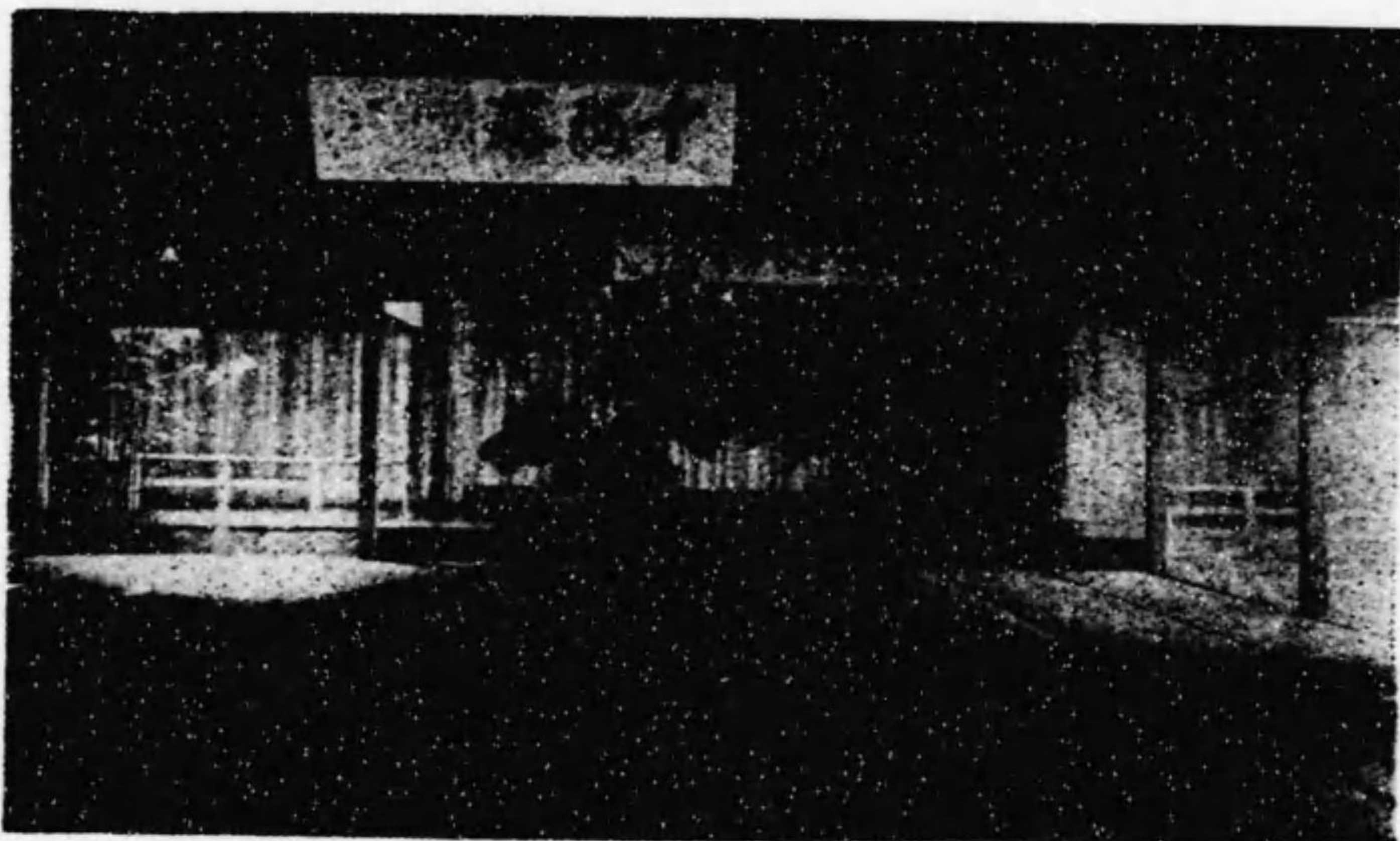
朝熊萬金丹

本家 野間園産

本店 伊勢朝熊山一番尾敷
支店 宇治山田市尾上町

電話五三四番

へ垣大都水は涼納の夏今



(間廣の樓岡吉垣大)

弊樓記念館樓上の格天井は東京畫壇の一流畫家名士百數十氏の揮毫にかゝり眞に天下の誇と御賞讃蒙り居候

水都大垣の清風は水の如く養老の御清遊は格別の妙趣有之候餘興には養老踊の上演仕可候

館旅理料御

園公老養

樓 歲 千 支店

番八老養話電
番八一田高話電長

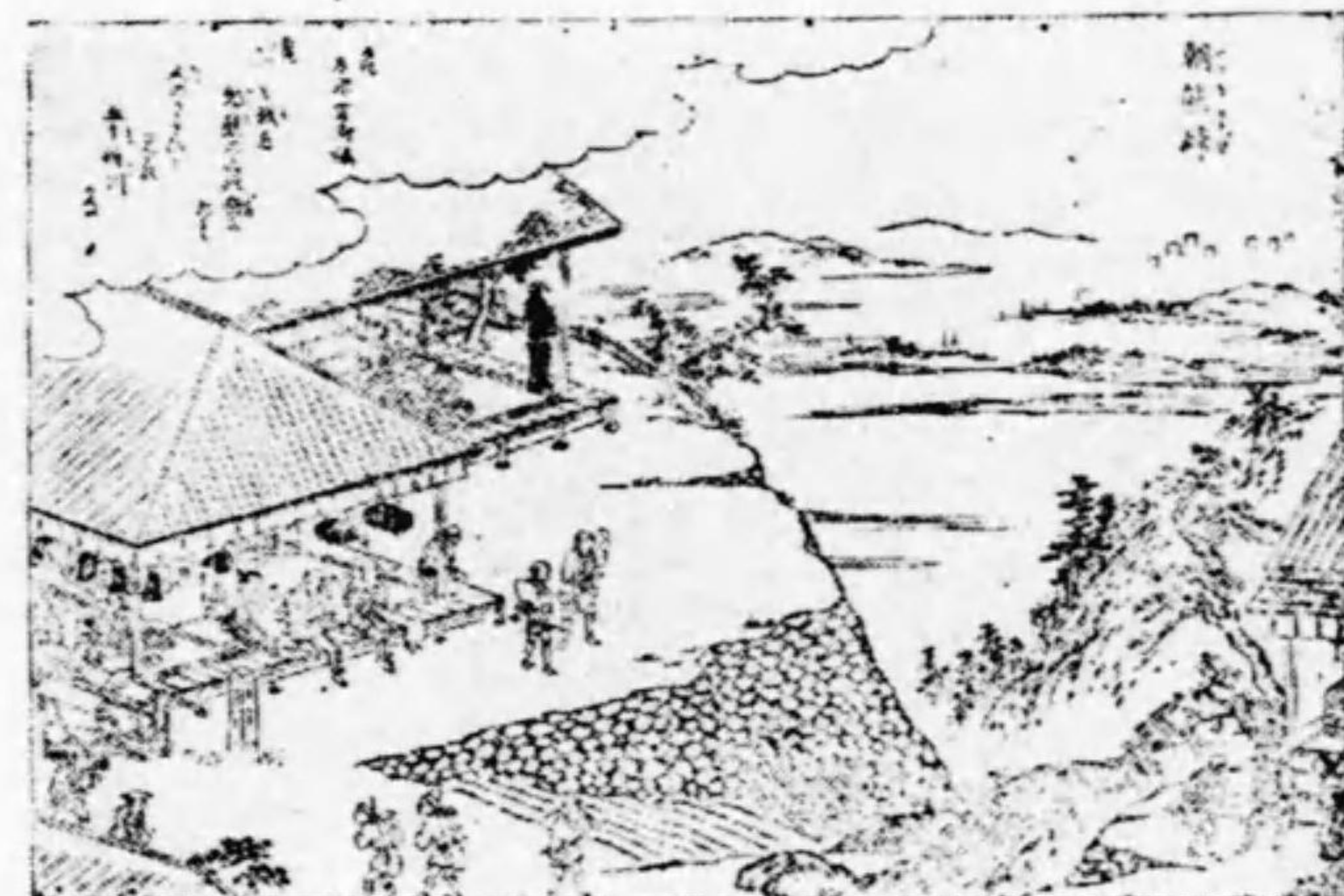
烹 割

園公市垣大

樓 岡 吉 本店

番八七一話電長
番九七一話電

45 44



涼味天國絶讚の
朝熊山の大避暑

空に満月の懸らぬ夜も無数の電燭と海光の映發に潮風を孕んだ大氣と二千尺高峰のオゾンの發生とに澄み渡り、大暑も八十度以上に昇らぬ絶讚の避暑地、朝熊登山の大觀望は恐らく納涼旅行の最高を意味し、積極的安息所たり風光美の雄大さは億測の許す處でなくあさまケイブルで一瞬に登山すれば金剛の如き健康をめぐむ本山金剛寺は山上に在つて、千山萬水を窓に見せて走るあさま自動車は納涼ドライブの王座であり、古典味と由緒悠久な寺寶を拜觀するも亦た涼味あり特に本尊の偉徳に利生を授つての歸途とうふ家の名物旅館に入り、山の幸海の幸との名献立になる同樓の人となつて山氣と神氣を味ひ、殊に曙光の美は冷涼の朝氣分と共に永き印象となつて何人も忘られることではない。

き活に仰信

るすと命生を活快の分氣御

食一日今物名

堂 食 阪 京

(前阪京)畔東橋大條三都京

番一七三三⑥園祇話電

創業五百有餘年

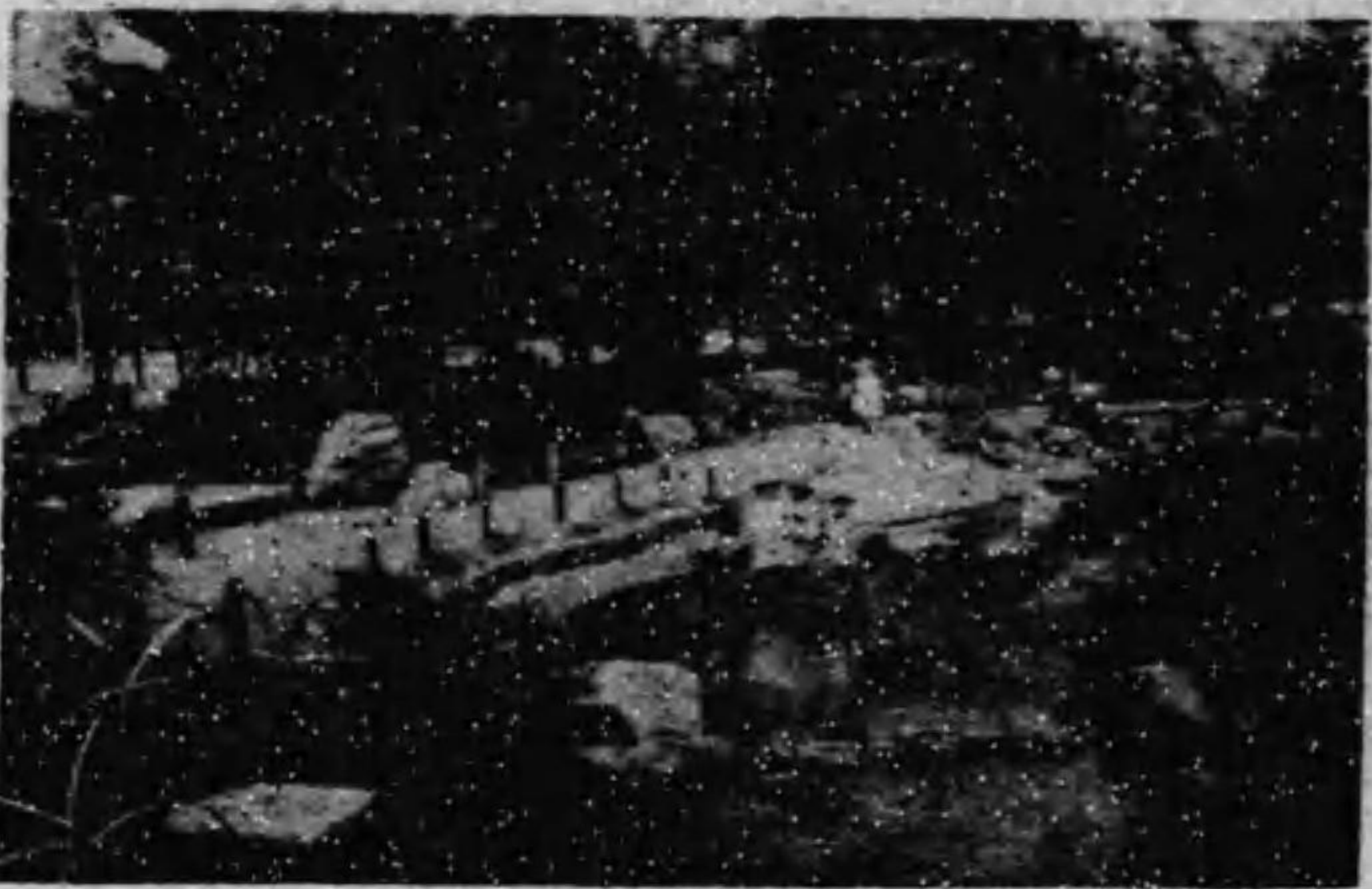
日本名物藥

朝熊萬金丹

本家 野間園彦

本店 伊勢朝熊山一番屋敷
支店 宇治山田市尾上町

電話五三四番



露と詩との水都
大垣の涼味

光と水とが千々に砕けて玉となり街々のところ／＼に池を湛え、清泉となつて綺麗な露を描く水都大垣の夏は、軽やかな浴衣に團扇で招かれやうな気分もあり市にも涼趣百景が随所に眺められる、大垣は戸田氏十萬石の舊城下で白亜の大垣城の天主閣は關ヶ原大戦の時に石田三成が軍議を凝らしたところで今も大垣に遊ぶと遊覧の楽しい考へが湧く心地がする。

名公園の逍遙から招魂社、常葉神社太神宮に禮拜し東海遊筋で第一流と稱讃される公園の割烹吉園樓に養老節を大垣美人に求めるも妙であり特に日本畫壇の巨匠百十數氏に成つた同樓の記念館格天井の名畫に接することは鎮夏第一の快と言ふ可く、尙ほ公園の泉茶屋は庖丁味で鳴りお手がる美味の魚吉樓の經營で數歩にも是非立寄るべく名物の代表金蝶園饅頭は名菓揃ひでみやげには忘れてならぬものだ。

最も面白い御案内する
養老の觀瀑、長良川鵜飼のお世話は

店支本なか濃調情

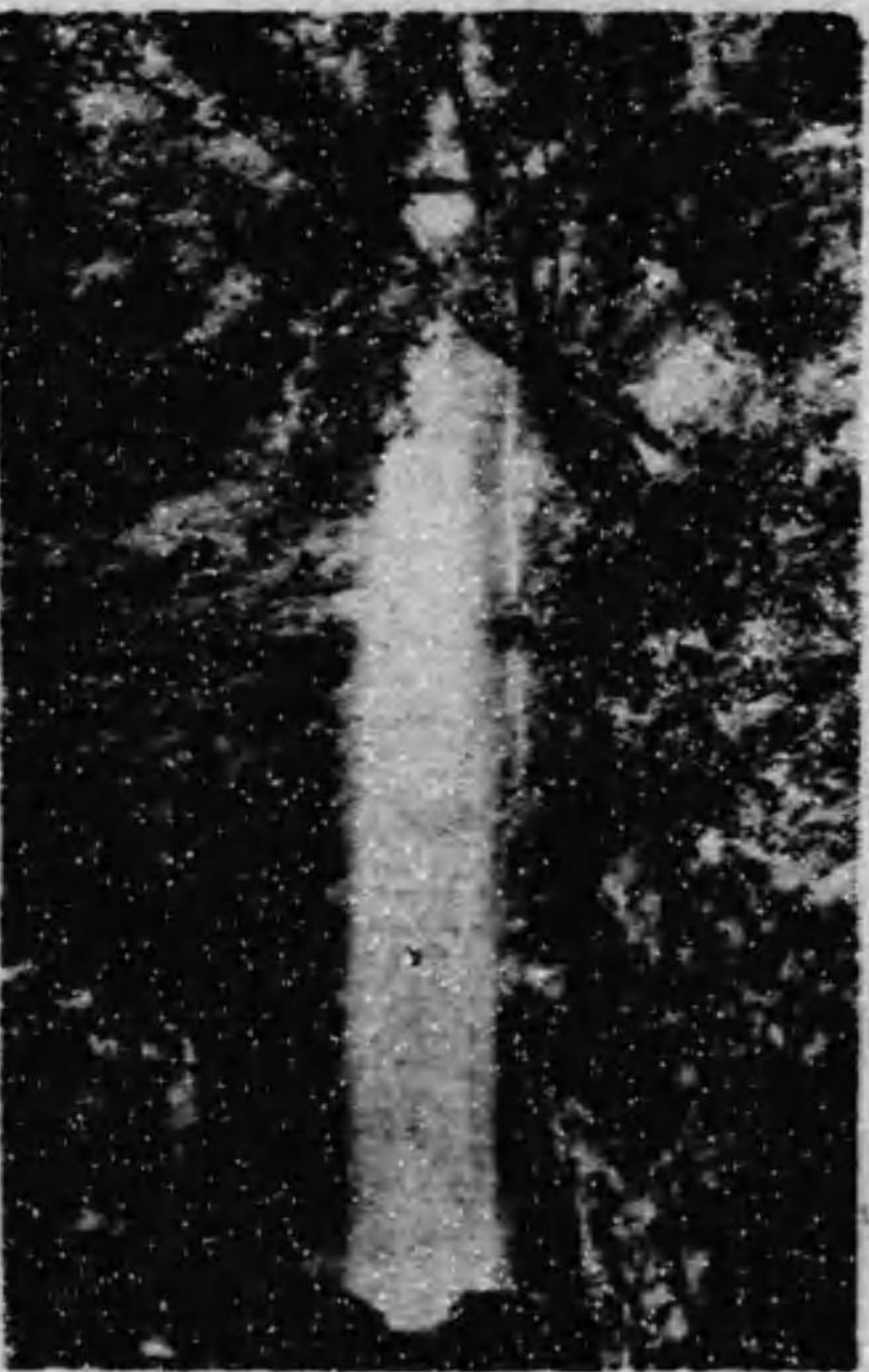


支公園
店園泉
の茶
屋

理料物名

樓吉魚

口入園公市垣大濃美
番七六一話電



涼味萬解

養老瀑の水浴

孝は百行の基、行樂又た百興の因である、觀瀑の行や今夏は養老の瀑を訪ふに限るであらふ、孝子の至情は自然の甘露となり銘酒となり冬はこの水を焔して至孝をあやかり、夏は清冽にして瀧壺浅きだけに飛び込んで心の汗と垢とをそぎ婦女子も安全に水浴を試みて夏なき天國に遊ぶ心地に浸らせる。

養老公園は廣さ二十有五萬坪、園内には元正天皇行在所、菊水神社、妙見堂、千歳樓等の名所舊蹟多く、瀧は高さ十丈五尺幅一丈二尺楓葉日を支へ緑樹蒼蒼たる間より萬載一齊に起り九尺より銀河倒に懸るかの壯麗であつて、料理旅館千歳樓上に入つて涼味に靜かに親しめば此上の納涼行はないであらう、大垣と養老こそ今夏の呼物として一遊を試みるべしとだ。

旅のみやげには
夏冬なしに
大和魂のこもる
美味の大垣代表名菓
孝子おこし

物名垣大



祖元
金蝶園饅頭

金蝶園本店

美濃大垣市郭町
電話三十四番



延期となった豪華な
紙團ねりもの

待望久しく復興されたねりものも未曾有の大水害で一時延期とはなつたが、この催は七月十日廿八日の兩神輿洗ひの當日紙團の藝舞技が列を組んで紙團大社へ参詣するに就て其往復、いづれも地方囃子の鼓が前後に立ち、中間に趣向を凝らし豪華を極めた服飾で衣裳を惜し氣もなく地上に曳き各自ねり子即ち舞方各自提灯持、團扇持ちの附添ひを連れて練り歩くので之れが見物にはその通行の街々は兩側に塔を結び、顧客より所望の聲がかゝれば扮する姿に因む一曲を演じつゝ行進の大輪巻を展開するものである。

又ねりものゝ起源は今より約二百年以前以前の寛永年間であつたと言はれ明治十三年頃まで続き同十五年九月に臨時に催され一旦中絶、更に同廿六年祇園北林に舞臺を構えて行はれたが爾後中絶昭和五年都踊中舞みでその風情を寫して見せたが本年より漸く復興大水害で秋へ持越しとは真に遺憾である。

錦本れたす京
堂美田保久
市都京
院洞東
南寺光錦
番西六一(四)可話電長

昭和十年七月十三日印刷
昭和十年七月十五日發行
京都市黒門元警願寺南
發行兼編輯人 野村 錦翠
京都市油小路一條北入
印刷所 太田弘文堂
京都市黒門元警願寺南
發行所 趣味と遊覽社

九條家御用
名産
満月餅
電話 二九二一
三九三二

川魚料理
約原床
濃香
電話 二九二一
三九三二

京都料理
名産
長久屋
電話 二九二一
三九三二

清水清瀧
電話 二三五番

367
529

北香堂書齋
電話 二九二一
三九三二



延期となつた豪華な
祇園ねりもの
 待望久しく復興されたねりものも
 未嘗有の大被害で一時延期とはなつ
 たが、この催は七月十日廿八日の兩
 神輿洗ひの當日祇園の藝舞妓が列を
 組んで祇園大社へ參詣するに就て其
 往復、いづれも地方雜子の妓が前後
 に立ち、中間に趣向を凝らし豪華を
 極めた服飾で衣裳を惜し氣もなく地
 上に曳き各自ねり子即ち舞方各自
 提灯持、團扇持ちの附添ひを連れて
 練り歩くので之れが見物にはその通
 行の街々は兩側に持を結び、顧客よ
 り所望の聲がかゝれば扮する姿に因
 む一曲を演じつゝ行進の大繪巻を展
 開するものである。
 又ねりものゝ起源は今より約二百
 二十年以前の寛永年間であつたと言
 はれ明治十三年頃まで續き同十五年
 九月に臨時に催され一旦中絶、更に
 同廿六年祇園北林に舞臺を構えて行
 はれたが爾後中絶昭和五年都路中掃
 みでその風情を寫して見せたが本年
 より漸く復興大被害で秋へ持越しと
 は眞に遺憾である。

鋪本れだす京
堂兼美田保久
 市都京
 院洞東
 南寺光佛
 番四六(四)ア話電長

昭和十年七月十三日印刷
 京都市黒門元誓願寺南
 印刷所太田弘文堂
 京都市黒門元誓願寺南
 發行所趣味と遊覽社

九條家御用
名産 満月
 あまのり餅
 京都寺橋三・廣重前
満月本舗
 電上 二九二二
 電下 二九三三

中之島賭場に鮎酢肯露漬
美濃杏
 京・後多
 電上 二四四五
 電下 二四三三

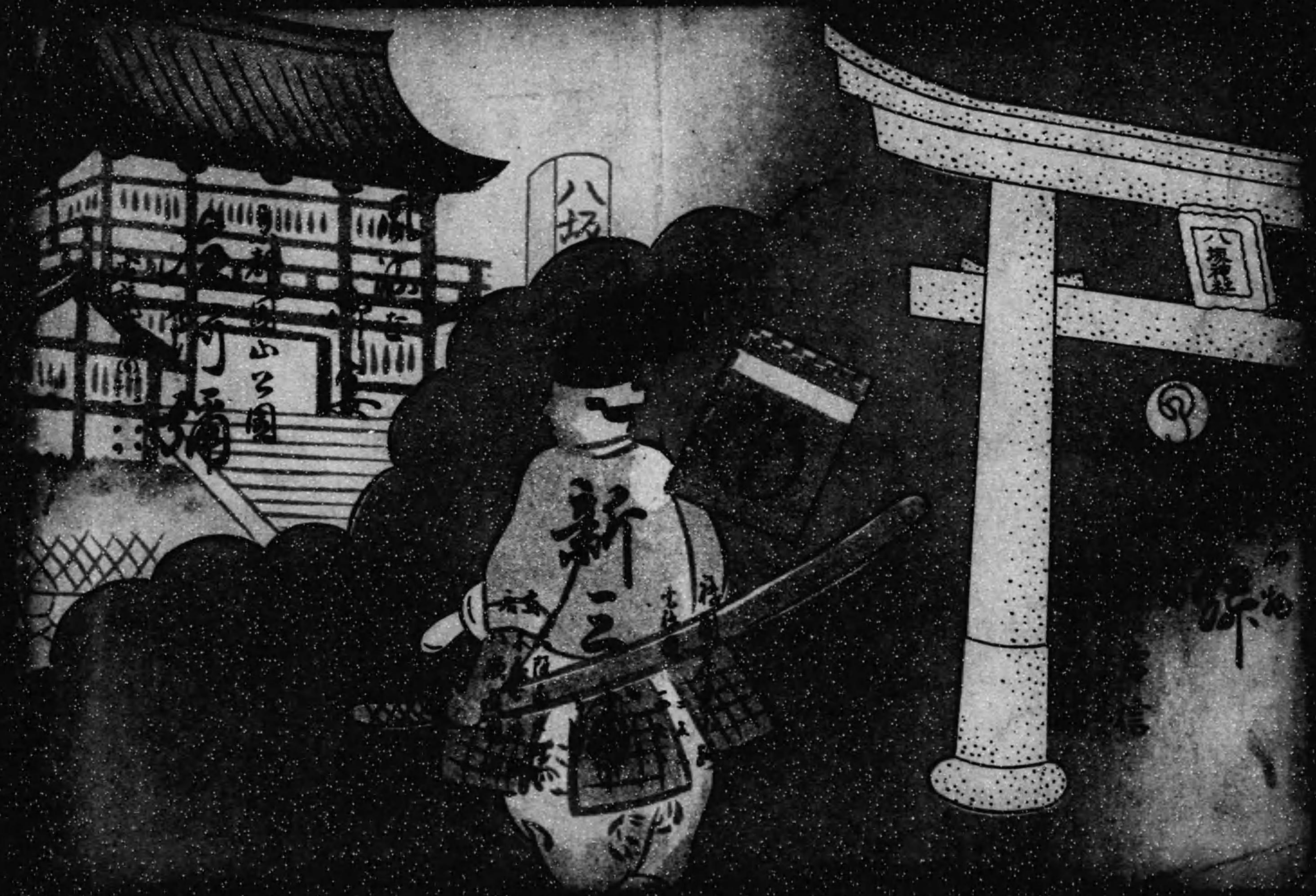
本居即料理
長久屋
 京本居寺町四條南
 電下(内) 二〇二七
 電下(外) ハ三三三

避暑と行樂
 御料理
ますや
 浴衣愛宕山清龍
 電上 一三五五

367
 529

北店 寺町清龍南
 電話 二〇二七

浴衣愛宕山清龍
 電上 一三五五





京名物
袖保

京都 杉橋
鶴屋吉信
京都市堀川今出川北入
電話 西陣(四) 二二三番
五二三番

八坂神社

新三浦

法園花見小路
七丁目 二二五六

大塚市三軒
本屋七丁目
八幡通 四丁目

京都 園山公園
左阿彌

風流
中
宴